
人口減少の要因分析に係る
アンケート調査結果について

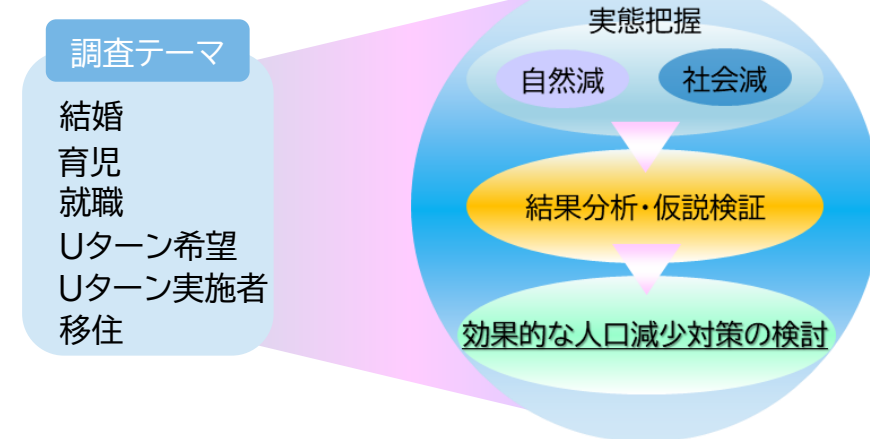
目次

1 アンケート調査の実施概要	3
2 アンケート調査結果について	4
2_(1) 結婚の希望等に関するアンケート調査	4
2_(2) 育児等に関するアンケート調査	18
2_(3) 就職の希望等に関するアンケート調査	25
2_(4) Uターンの希望等に関するアンケート調査	34
2_(5) Uターン等に関するアンケート調査	39
2_(6) 移住等に関するアンケート調査	44

1 アンケート調査の実施概要

アンケート種類	自然減対策	
	① 結婚の希望等	② 育児等
対象者	愛媛県在住の20代～30代未婚者	愛媛県在住の30代～40代既婚者
有効回収数	300件	400件
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報 結婚に対する意識について 交際や出会いに対する意識・行動について 結婚後の出産、家事・育児、働き方等に対する意識について えひめ結婚支援センターについて 男性の育児休業等取得に対する意識について 	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報 出産に対する意識について 出産前後の就業状況について 育児について 男性の育児休業等取得に対する意識について
調査手法	アンケート調査会社のモニターを対象としたインターネット調査を実施	
実施時期	令和4年7月8日～13日	

各テーマの対象者に対し、アンケート調査を実施することで、現状及びニーズ等の把握を行い、課題点の発見と解消につなげ、今後の方向性を検討する。



アンケート種類	社会減対策			
	③ 就職の希望等	④ Uターンの希望等	⑤ Uターン等	⑥ 移住等
対象者	松山大学、愛媛大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学に在籍している大学生【県内大学生】	愛媛県出身で、愛媛県外の大学に進学した大学生【県外大学生】	愛媛県出身で、愛媛県外の大学等に進学後、新卒で愛媛県内企業にUターン就職した20代社会人	愛媛県出身で、首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）または関西圏（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）在住の20代～40代
有効回収数	1,400件	85件	118件	297件
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報 就職先の希望について 就職活動の状況について 愛媛県内での起業について 愛媛県外での就職・起業理由について 愛媛県に対するイメージ等について 就職先企業を選択する際の意識について 男性の育児休業等取得に対する意識について 	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報 就職先の希望について Uターン就職活動の状況等について 愛媛県外での就職、起業理由、Uターン意向について 愛媛県に対するイメージ等について 就職先企業を選択する際の意識について 男性の育児休業等取得に対する意識について 	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報 愛媛県内企業へのUターン就職について 男性の育児休業等取得に対する意識について 	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報 愛媛県への移住に関する意識について 愛媛県に対するイメージ等について 学校教育における愛媛県内企業・産業や地域活動等の学習体験機会について 男性の育児休業等取得に対する意識について
調査手法	県内の大学に通う県内大学生を対象としたアンケート調査を実施（Web）	ジョブカフェ愛work、愛媛県人寮、県外大学を通じ、県外大学進学者を対象としたアンケート調査を実施（Web）	ジョブカフェ愛workに登録している企業等を通じ、Uターン就職した従業員を対象としたアンケート調査を実施（Web）	アンケート調査会社のモニターを対象としたインターネット調査を実施
実施時期	令和4年6月20日～7月8日	令和4年6月20日～7月1日	令和4年6月15日～7月15日	令和4年7月8日～15日

2 アンケート調査結果について

(1) 結婚の希望等に関するアンケート調査

[対象者]愛媛県在住の20代～30代未婚者

2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

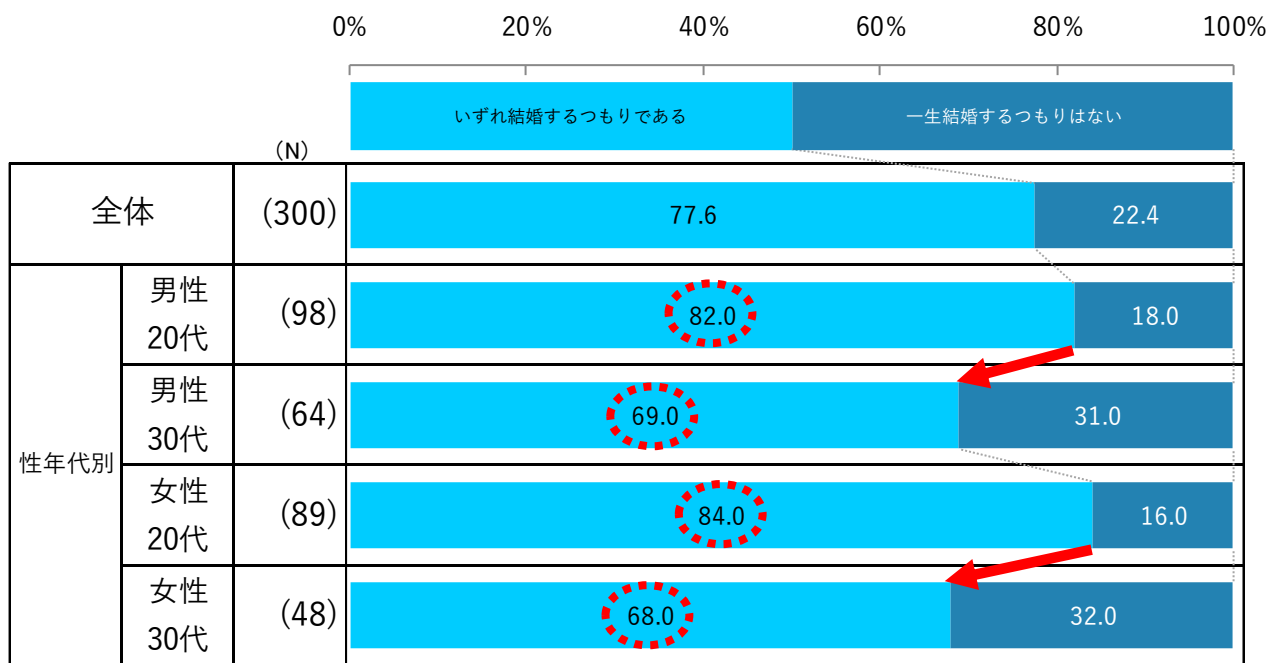
1. 結婚に対する希望

- 男女いずれも、20代よりも30代の方が、「いずれ結婚するつもり」との回答が少ない。
- 「一生結婚するつもりがない」理由として最も多いのは「自由でいたいから」。
- また、20代は「誰かと一緒に生きていたいと思わない」「結婚に憧れを持ってない」等の結婚そのものを否定する回答が多いが、30代になると「結婚するほど好きな人に巡り合っていない」「結婚相手を見つける自信がない」「結婚生活を送る経済力がない」等の、**（本当は結婚したいが）良き出会いや経済状況等の結婚するための諸条件が十分に整っていないことを結婚しない理由として挙げる人が増加**する傾向が見受けられる。

良き出会いの欠如、交際相手がないシングル生活の長期化、不安定な雇用形態や低年収からもたらされる将来的な経済不安等を背景として、年齢が上がるに連れて、「いずれ結婚するつもり」との回答が逡減していく様子が伺える。

結婚に対する希望（性年代別）

全体で「いずれ結婚するつもりである」が77.6%、「一生結婚するつもりはない」が22.4%となっており、男性・女性のいずれも30代より20代の方が結婚を希望する人の割合が高い。



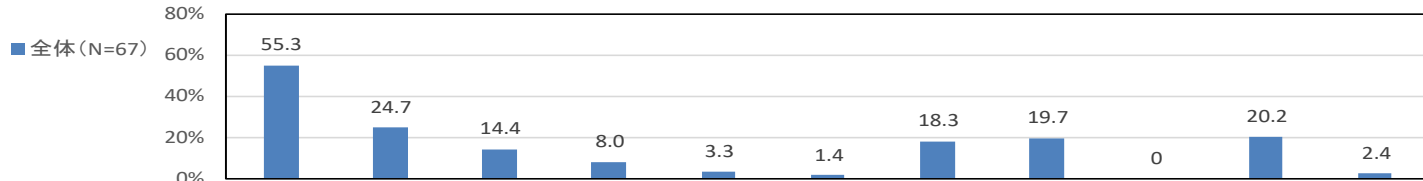
2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

1. 結婚に対する希望

「一生結婚するつもりがない」理由（性年代別）

男女ともに「自由でいたいから」との回答が最も多くなっている。

また、男性は「結婚生活を送る経済力がないから」を理由に挙げる人が、女性は「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」を理由に挙げる人が一定数を占めている。



	(N)	自由でいたいから	結婚するほど好きな人に巡り合っていないから	結婚相手を見つける自信がないから	名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから	仕事・家事・育児を背負うことになるから	仕事を優先したいから	結婚生活を送る経済力がないから	誰かと一緒に生活したいと思わないから	両親や祖父母の意向	両親の夫婦関係を見ていて結婚に気がれや希望が持てないから	その他
全体	67	55.3	24.7	14.4	8.0	3.3	1.4	18.3	19.7	0	20.2	2.4
男性	38	56.9	20.6	15.5	6.9	3.4	0	27.5	20.7	0	19.0	1.7
女性	30	53.2	29.8	12.9	9.3	3.2	3.2	6.5	18.5	0	21.8	3.2
男性・20代	18	55.6	11.1	11.1	11.1	0	0	22.2	22.2	0	22.2	0
男性・30代	20	58.1	29.0	19.4	3.2	6.5	0	32.3	19.4	0	16.1	3.2
女性・20代	14	50.0	25.0	0	12.5	0	0	0	25.0	0	25.0	0
女性・30代	15	56.3	34.4	25.0	6.3	6.3	6.3	12.5	12.5	0	18.8	6.3

20代計
N=32

30代計
N=35

は全体より10ポイント、
は全体より10ポイント、

※赤字はベースがN=29以下のため参考値

は全体より5ポイント以上高いセル
は全体より5ポイント以上低いセル

2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

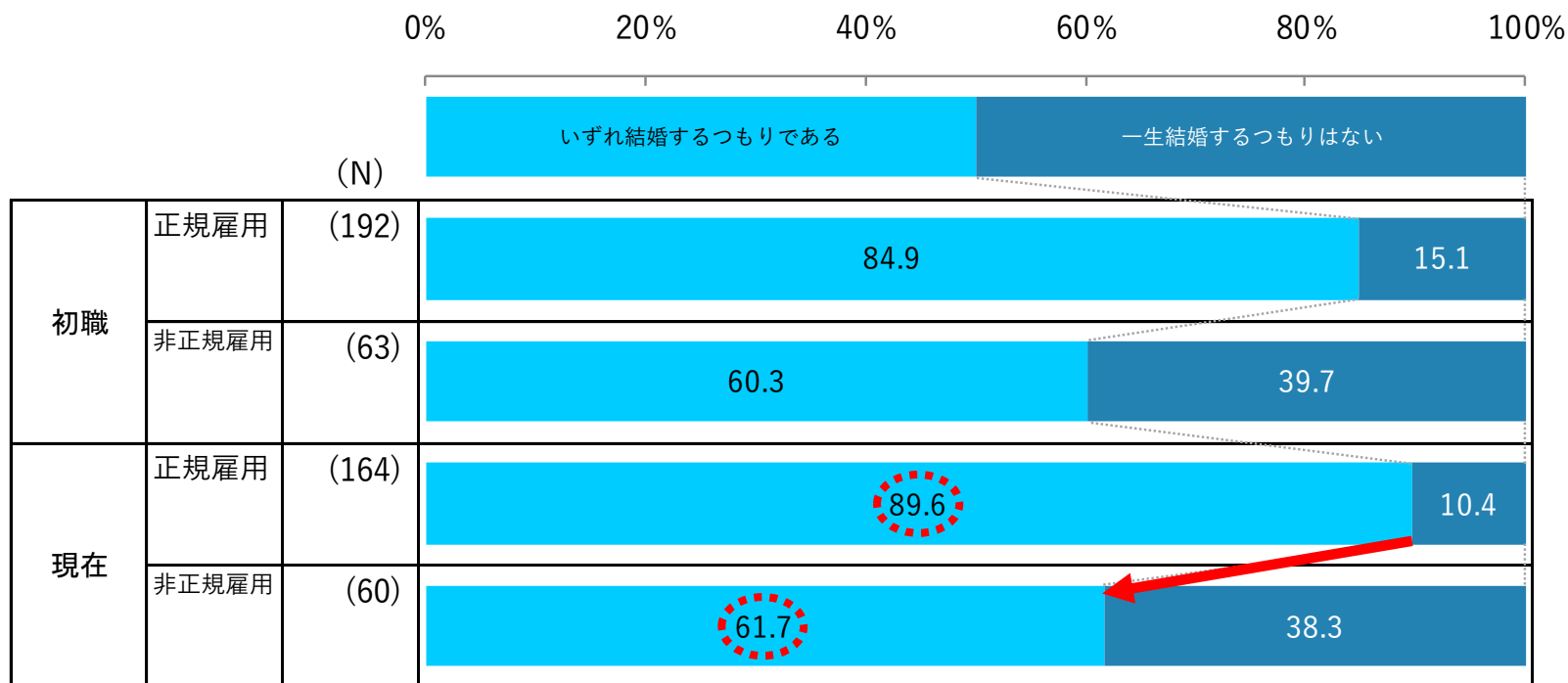
2. 雇用形態・年収と結婚希望について

- ・ 正規雇用の89.6%が結婚を希望しているのに対し、非正規雇用者は61.7%。
- ・ 年収200万円以上の89.1%が結婚を希望しているのに対し、年収200万円未満は61.3%。

相対的に、正規雇用者・年収200万円以上は結婚希望が高く、非正規雇用者・年収200万円未満は結婚希望が低い。

雇用形態と結婚に対する希望

初職や現在の雇用形態が「正規雇用」である人の80%以上が「いずれ結婚するつもりである」と回答。



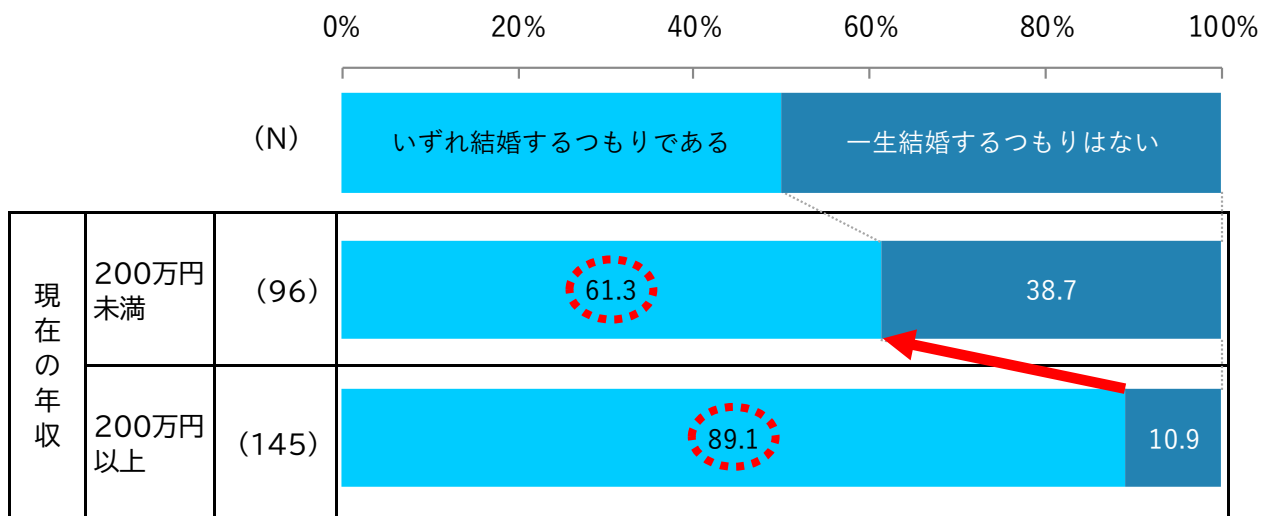
※正規雇用・・・「正社員・正規職員（フルタイム）」、「正社員・正規職員（短時間）」
非正規雇用・・・「パート・アルバイト」、「派遣・嘱託・契約社員」

2 アンケート調査結果について_ (1) 結婚の希望等に関するアンケート調査

2. 雇用形態・年収と結婚希望について

現在の年収と結婚に対する希望

年収200万円以上で89.1%を占めた「いずれ結婚するつもりである」が、年収200万円未満になると61.3%に低下。



2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

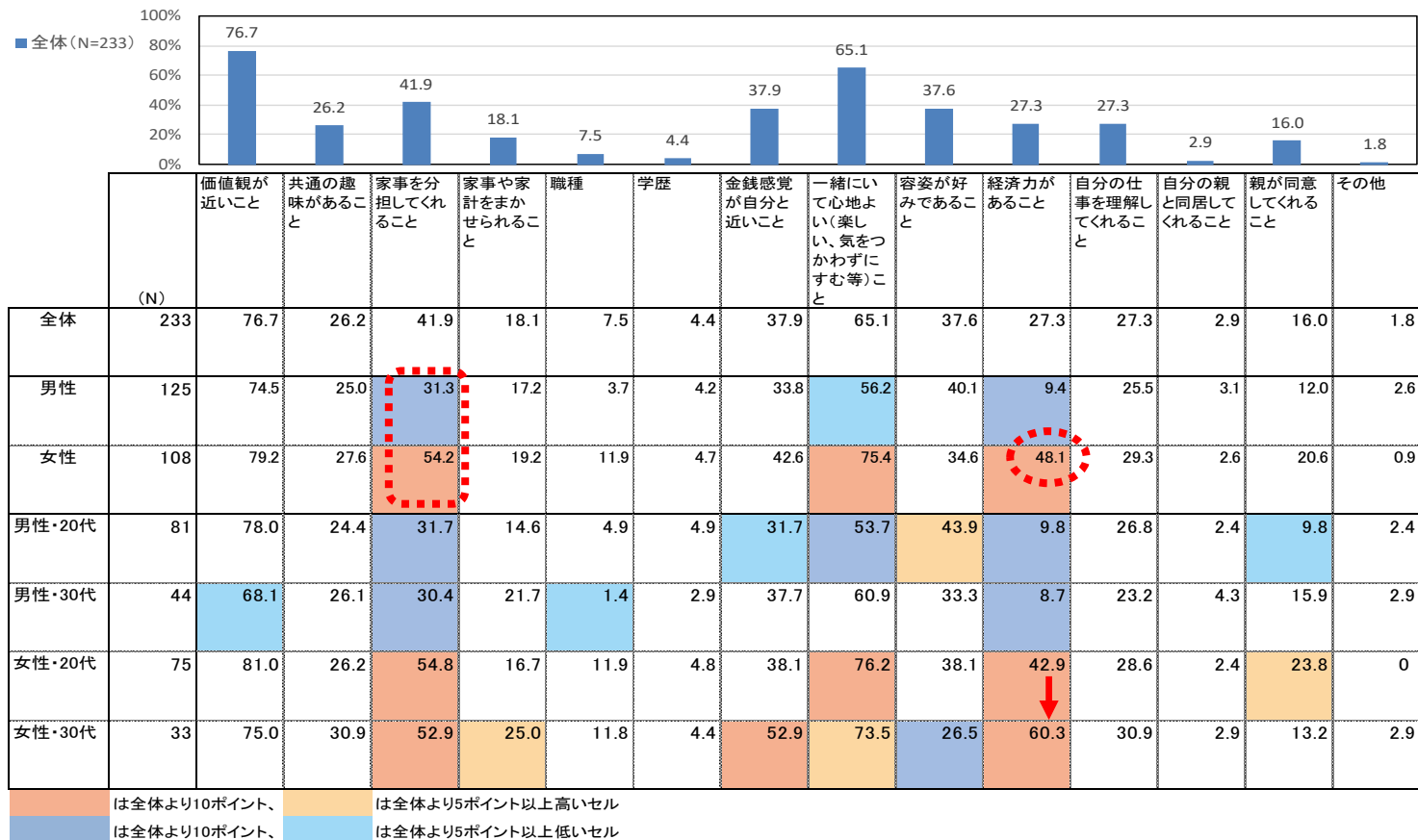
3. 結婚相手に求める条件

- ・女性の48.1%が結婚相手に求める条件として「**経済力があること**」を挙げるも、男性の34.1%が**年収200万円未満**。
- ・男性側も、結婚するつもりがない理由として、「**結婚生活を送る経済力がないから**」を挙げる人が27.5%。
- ・また、「**家事を分担してくれること**」との回答に男女差（女性は54.2%、男性は31.3%）が見られた。

女性が結婚相手に求める経済力を男性が有しておらず、また、男性自身も経済力がないことを自覚し、結婚をあきらめている様子が伺える。また、家事の分担に関する男女間の意識差も、結婚におけるハードルの一つとなっていることが伺える。

結婚相手に求める条件（性年代別）

全体では、「価値観が近いこと」が76.7%、「一緒にいて心地よい」が65.1%となった。

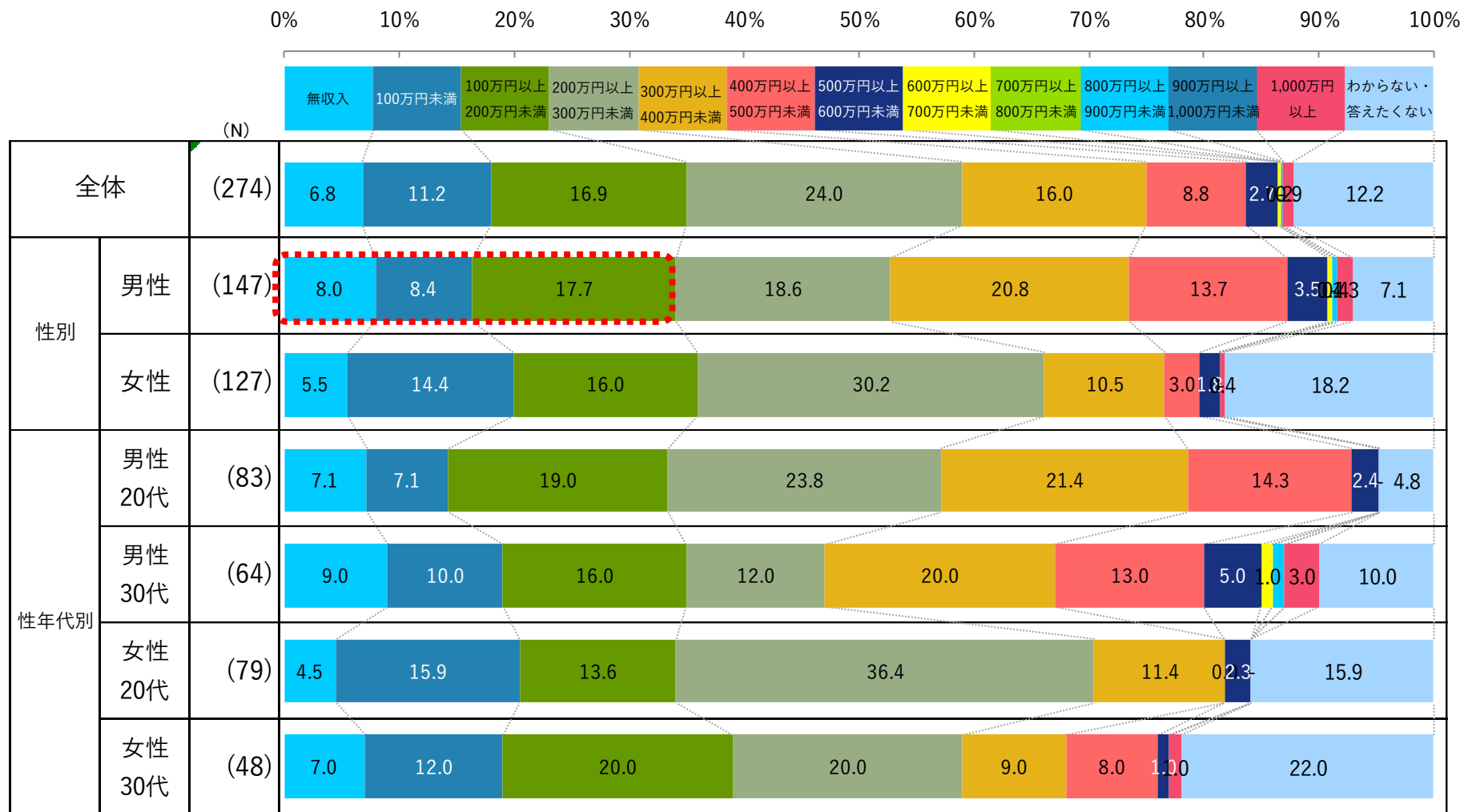


2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

3. 結婚相手に求める条件

アンケート回答者の年収（性年代別）

男性の34.1%は年収200万円未満となっている。

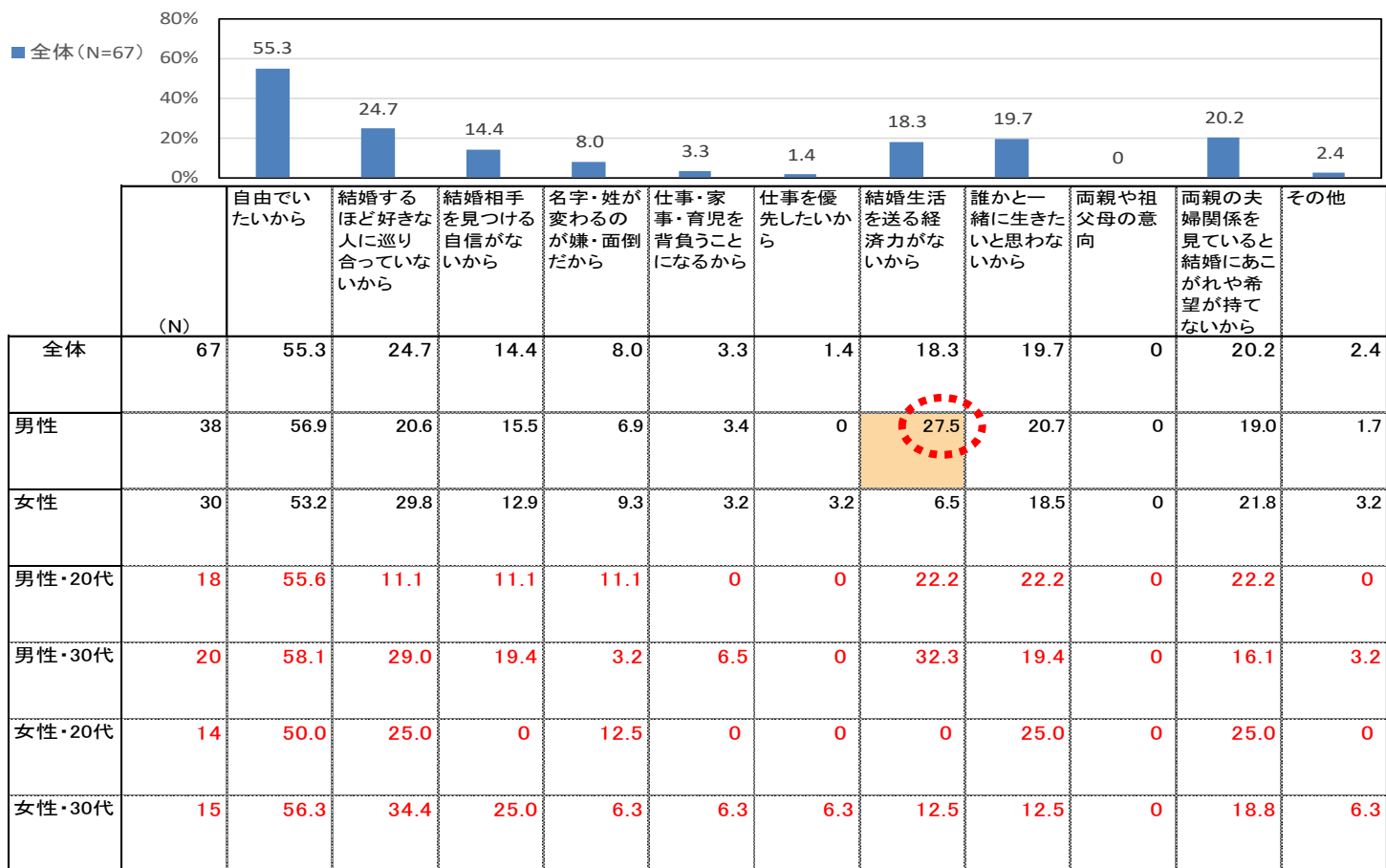


2 アンケート調査結果について_(1)結婚の希望等に関するアンケート調査

3. 結婚相手に求める条件

「一生結婚するつもりがない」理由（性年代別）

「一生結婚するつもりがない」と回答した男性の27.5%が、「結婚生活を送る経済力がない」ことを理由として、結婚をあきらめている。



(N)	自由でいたいから	結婚するほど好きな人に巡り合っていないから	結婚相手を見つける自信がないから	名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから	仕事・家事・育児を背負うことになるから	仕事を優先したいから	結婚生活を送る経済力がないから	誰かと一緒に生活したいと思わないから	両親や祖父母の意向	両親の夫婦関係を見てると結婚に気がれや希望が持てないから	その他	
全体	67	55.3	24.7	14.4	8.0	3.3	1.4	18.3	19.7	0	20.2	2.4
男性	38	56.9	20.6	15.5	6.9	3.4	0	27.5	20.7	0	19.0	1.7
女性	30	53.2	29.8	12.9	9.3	3.2	3.2	6.5	18.5	0	21.8	3.2
男性・20代	18	55.6	11.1	11.1	11.1	0	0	22.2	22.2	0	22.2	0
男性・30代	20	58.1	29.0	19.4	3.2	6.5	0	32.3	19.4	0	16.1	3.2
女性・20代	14	50.0	25.0	0	12.5	0	0	0	25.0	0	25.0	0
女性・30代	15	56.3	34.4	25.0	6.3	6.3	6.3	12.5	12.5	0	18.8	6.3

 は全体より10ポイント、 は全体より5ポイント以上高いセル
 は全体より10ポイント、 は全体より5ポイント以上低いセル

※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

4. マッチングアプリ・サイト

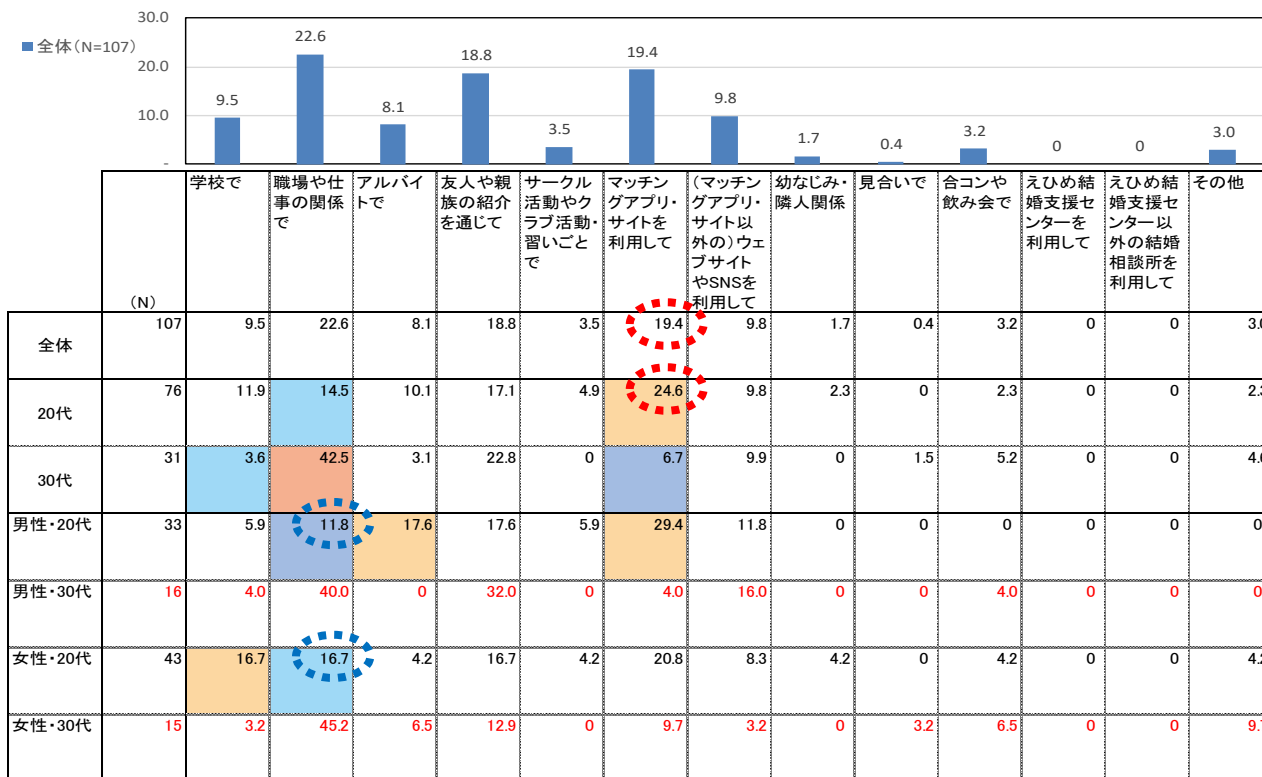
- ・ (交際相手がいる人)交際相手と出会ったきっかけとして「マッチングアプリ・サイト」を挙げる人が19.4%、20代に限定すれば**24.6%**と最多。
- ・ (交際相手がない人)交際相手を見つけるための手段として「マッチングアプリ・サイト」を挙げる人が**49.4%**と最多。
- ・ マッチングアプリ・サイトを通じた出会いに対する**抵抗感が「ない」**または**「どちらともいえない」**と回答した人が**計60.0%**。(「ある」が40.0%)

「マッチングアプリ・サイト」が次世代の出会いツールとして若者の間で浸透している様子が伺える。

交際相手と出会ったきっかけ

全体では、「職場や仕事の関係」が22.6%、「マッチングアプリ・サイト」が19.4%、「友人や親族の紹介」が18.8%となった。

男性・女性のいずれも、20代は「マッチングアプリ・サイトを利用して」と回答した人が最も多く、30代は「職場や仕事の関係で」と回答した人が最も多い。



は全体より10ポイント、は全体より10ポイント、は全体より5ポイント以上高いセル、は全体より5ポイント以上低いセル

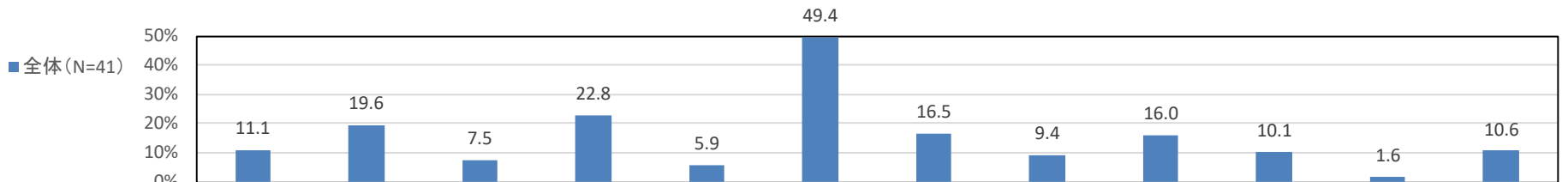
※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_(1)結婚の希望等に関するアンケート調査

4. マッチングアプリ・サイト

交際相手を見つけるための手段

全体では、「マッチングアプリ・サイトを利用」が49.4%、「友人や親族に紹介を依頼」が22.8%、「職場や仕事の関係で探す」が19.6%となった。
男女いずれの年代でも、「マッチングアプリ・サイトを利用」と回答した人が最も多くなっている。



	(N)	学校で相手を探す	職場や仕事 の関係で相 手を探す	アルバイト先 で相手を探す	友人や親族 に紹介を依頼 する	サークル活動 やクラブ活 動・習いごと で相手を探す	マッチングア プリ・サイトを 利用して相手 を探す	(マッチングア プリ・サイト以 外の)ウェブ サイトや SNSを通じて 興味のあるコ ミュニティに参 加する	お見合いする	合コンや飲み 会に参加する	えひめ結婚 支援センター を利用して相 手を探す	えひめ結婚 支援センター 以外の結婚 相談所を利用 して相手を探 す	その他
全体	41	11.1	19.6	7.5	22.8	5.9	49.4	16.5	9.4	16.0	10.1	1.6	10.6
男性・20代	18	22.2	22.2	11.1	33.3	11.1	44.4	22.2	11.1	11.1	0	0	11.1
男性・30代	8	8.3	25.0	8.3	16.7	0	50.0	8.3	25.0	25.0	25.0	8.3	8.3
女性・20代	11	0	16.7	0	16.7	0	50.0	16.7	0	16.7	16.7	0	16.7
女性・30代	5	0	9.1	9.1	9.1	9.1	63.6	9.1	0	18.2	9.1	0	0

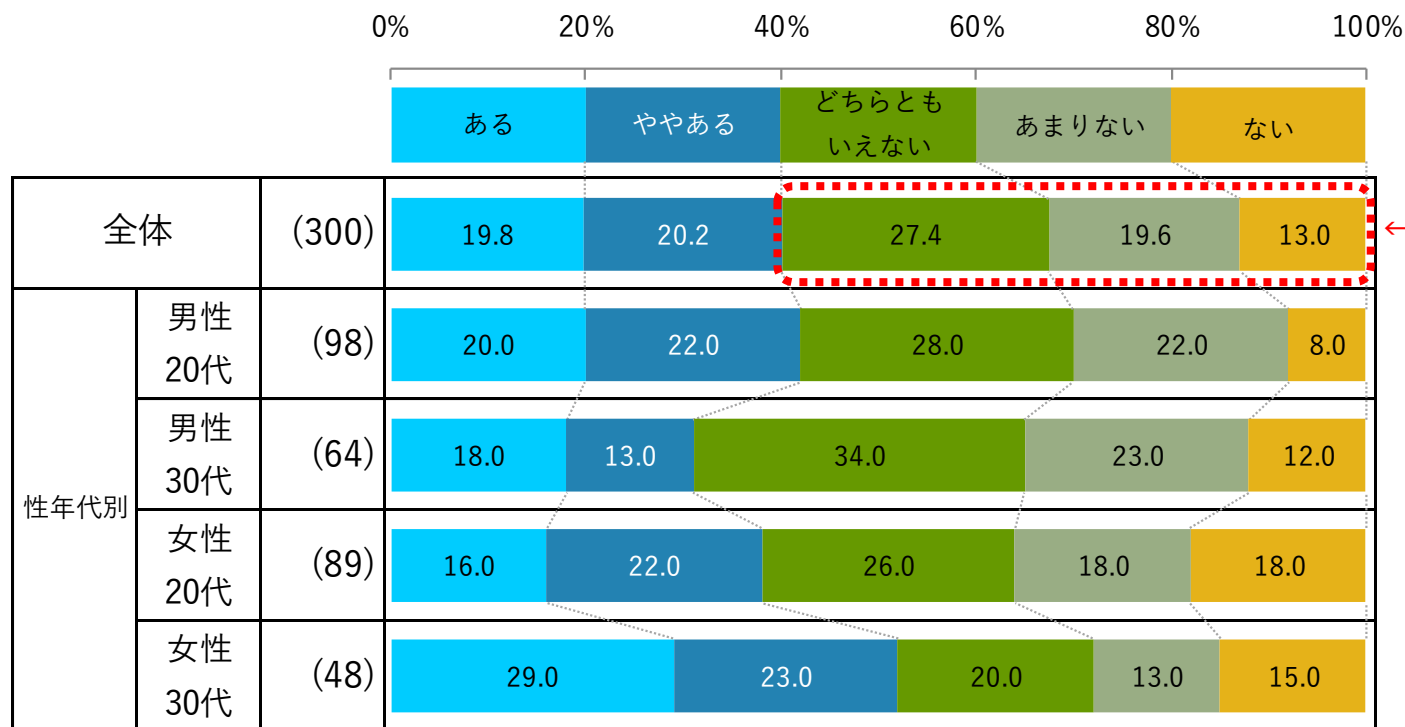
※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_(1)結婚の希望等に関するアンケート調査

4. マッチングアプリ・サイト

マッチングアプリ・サイトを通じた出会いに対する抵抗感

全体で、「ある」「ややある」が計40.0%、「ない」「あまりない」が計32.6%、「どちらともいえない」が27.4%となった。



←「どちらともいえない」と回答した
ニュートラルな層も含め、
明確な抵抗感を持たない人が60.0%

2 アンケート調査結果について_（1）結婚の希望等に関するアンケート調査

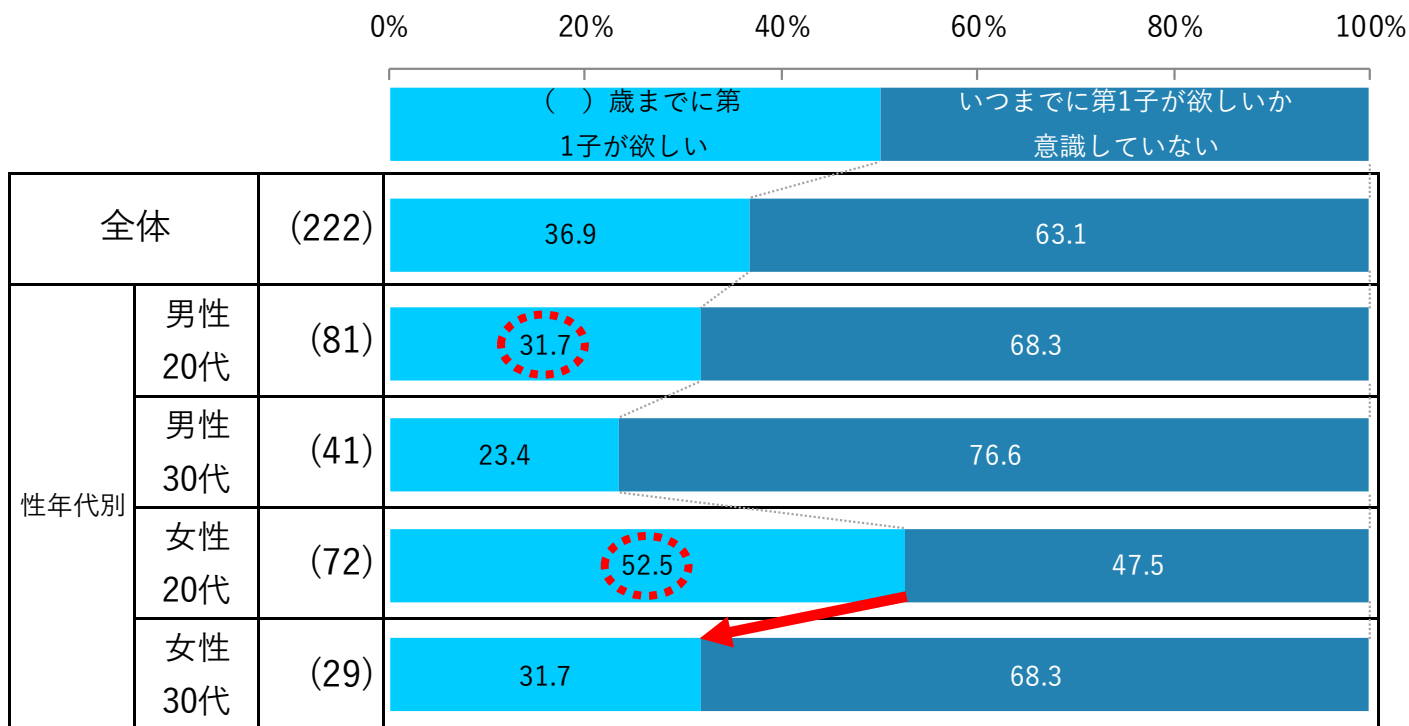
5. 第1子の出産時期の希望

- ・ 20代未婚のうちから、**女性**は「〇才までに第1子が欲しい」と明確に**出産時期まで意識している人が52.5%**。一方、**男性**で意識している人は**31.7%**。
- ・ 第1子の出産時期は現在の年齢+5~6歳程度(20代女性の場合)を希望する人が多く、**未婚のまま30代になると、子どもが欲しいという回答は減少**。

特に女性は「第1子の出産時期」に対する意識が結婚に対するモチベーションの一つとなっていることが推測され、女性が自然に妊娠する力が低下し、流産等のリスクが高まると言われている年齢に近づくにつれて、結婚と出産に対する意欲がいずれも低下している様子が伺える。

第1子出産時期に対する意識

全体では、第1子が欲しい年齢を意識している人が36.9%、意識していない人が63.1%となっている。
男性よりも女性の方が、第1子が欲しい年齢を明確に意識している人が多く、特に20代において男女間の意識差が顕著。

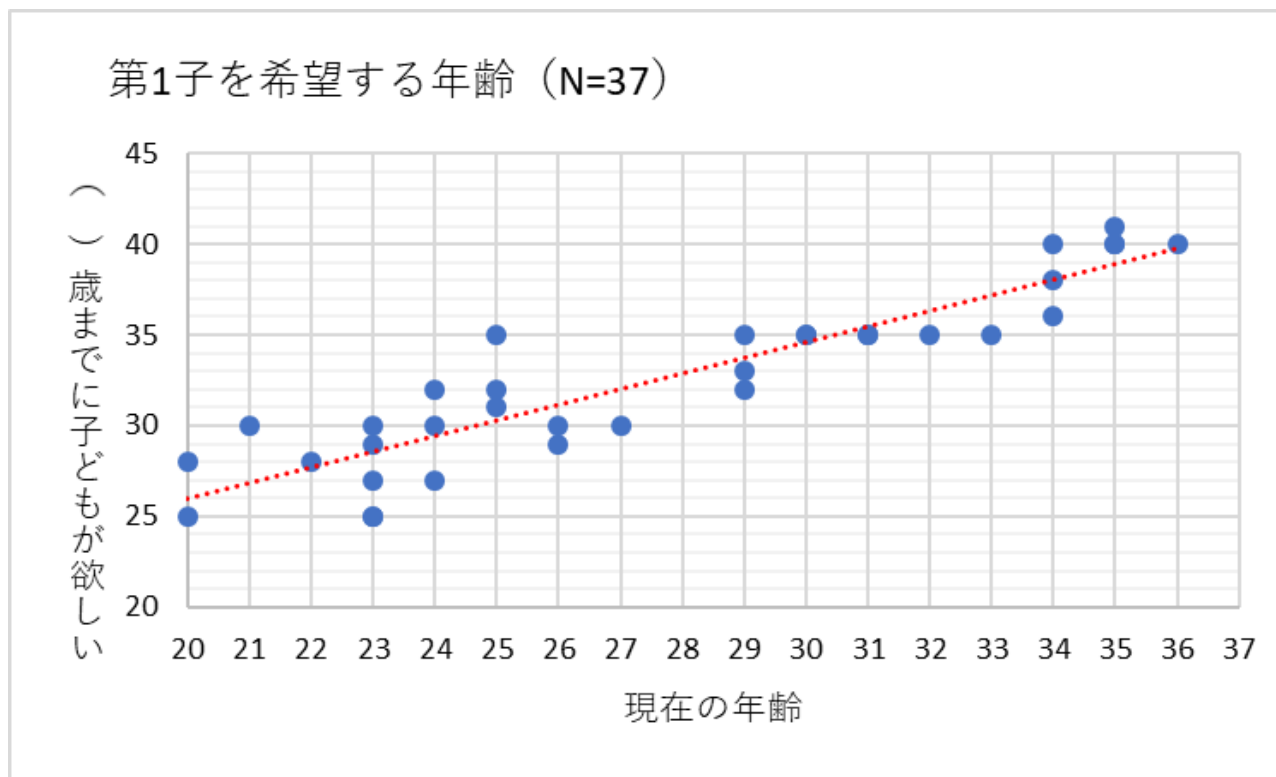


2 アンケート調査結果について_(1)結婚の希望等に関するアンケート調査

5. 第1子の出産時期の希望

女性が第1子を希望する年齢

女性が第1子を希望する年齢は、20代は現在の年齢プラス5～6歳程度、30代は現在の年齢プラス4～5歳程度となっている。

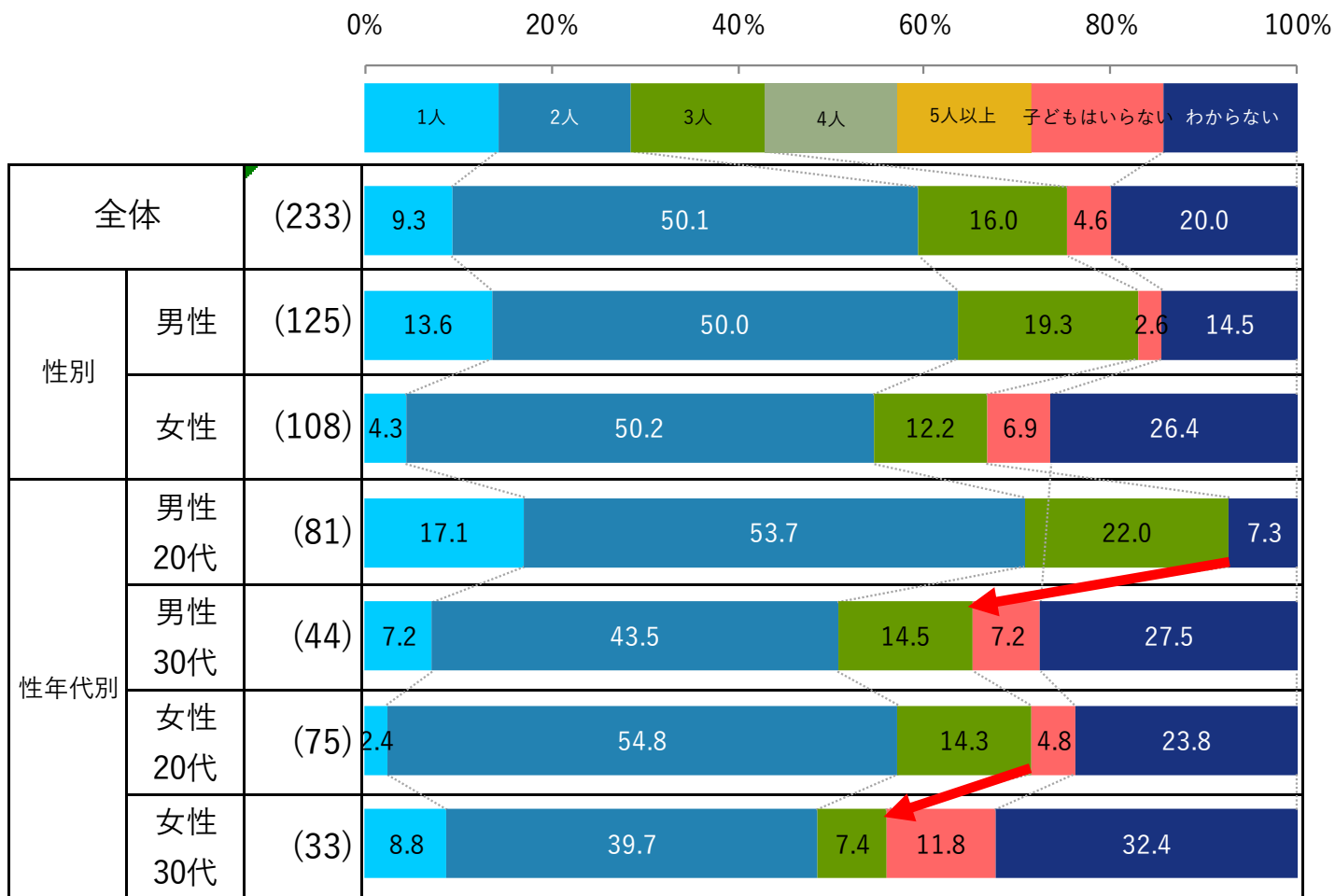


2 アンケート調査結果について_(1) 結婚の希望等に関するアンケート調査

5. 第1子の出産時期の希望

希望する子供の人数

男性・女性のいずれも、30代より20代の方が、「子どもが欲しい人」が多く、30代になると「子どもはほらない」「わからない」が増加。
また、男性より女性の方が、「子どもはほらない」「わからない」と回答した人が多い。



2 アンケート調査結果について

(2) 育児等に関するアンケート調査

[対象者] 愛媛県在住の30代～40代既婚者

2 アンケート調査結果について_(2) 育児等に関するアンケート調査

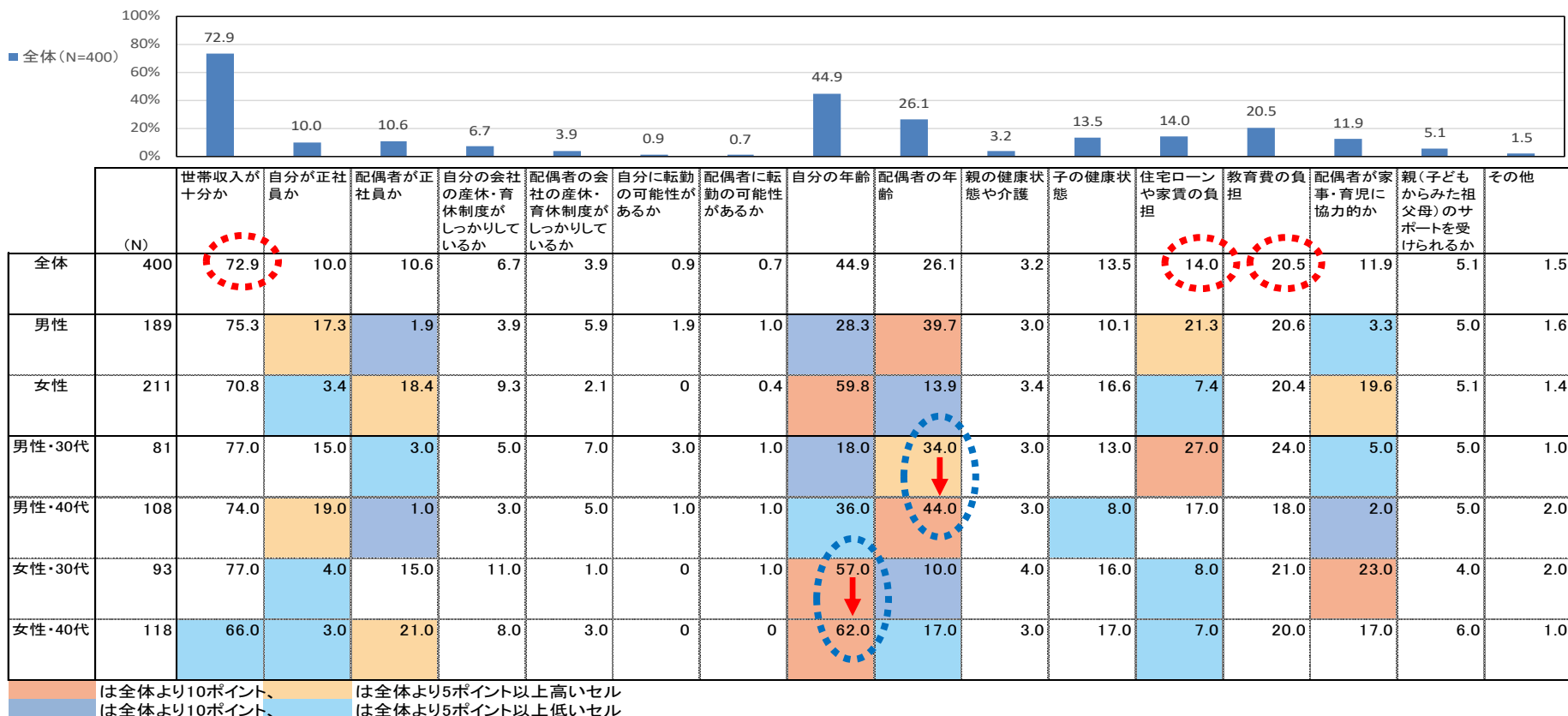
1. 子どもを持つにあたって重視すること

- ・「世帯収入が十分か」と回答した人が最も多く、「教育費」「住宅ローン・家賃」の負担と回答した人も含め、経済状況を重視している人が多い。
- ・次に、(妻の出産時の)「年齢」を重視している人が多く、年齢が上がるほど、その回答割合は増加している。

安心して子どもを持てる、安定した雇用形態等も含めた世帯年収水準の引き上げ・安定化、結婚・出産時期の早期化に向けた取組みが重要。

子どもを持つにあたって重視すること

全体では、「世帯収入が十分か」が72.9%、「自分の年齢」が44.9%、「配偶者の年齢」が26.1%となった。
教育費・住宅ローンも含めた経済状況を重視している人が多く、男性は配偶者、女性は自身の年齢を重視していることが見受けられる。



2 アンケート調査結果について_(2) 育児等に関するアンケート調査

2. 理想の子ども人数を実現することが難しい理由

- 「理想の子ども人数> 現在の子ども人数」、かつ、「もう子どもは望まない」or「理想の子ども人数までは難しい」と回答した人に、理想の子ども人数を実現することが難しい理由を聞いたところ、「子育てや教育にお金がかかり過ぎる」が51.0%、「高年齢での出産に不安がある」が42.2%。

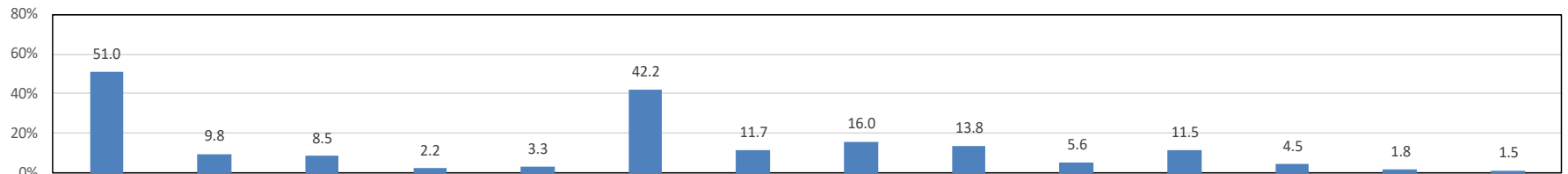
前ページの「1. 子どもを持つにあたって重視すること」と同様の傾向であり、「経済状況」と「年齢」が出産意欲を低下させる大きな要因となっている。

理想の子ども人数を実現することが難しい理由

全体では、「子育てや教育にお金がかかり過ぎるから」が51.0%、「高年齢での出産に不安があるから」が42.2%となった。

年代別に見ると、30代は「子育てや教育にお金がかかり過ぎるから」と回答した割合が高く、40代になると「高年齢での出産に不安があるから」と回答した割合が増加している。

(全体)



	(N)	子育てや教育にお金がかかり過ぎるから	家が狭いから	自分の仕事に差し支えるから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	高年齢での出産に不安があるから	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	健康上の理由から	望んでいるができないから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	配偶者が望まないから	末子が定年退職までに成人してほしいから	その他	わからない
全体	127	51.0	9.8	8.5	2.2	3.3	42.2	11.7	16.0	13.8	5.6	11.5	4.5	1.8	1.5
男性・30代	20	60.0	20.0	16.0	4.0	0	24.0	20.0	8.0	4.0	4.0	12.0	0	0	0
男性・40代	38	51.4	5.7	11.4	2.9	5.7	40.0	5.7	11.4	11.4	8.6	8.6	5.7	2.9	0
女性・30代	32	64.7	8.8	2.9	2.9	2.9	47.1	8.8	23.5	20.6	5.9	5.9	0	0	5.9
女性・40代	38	34.4	9.4	6.2	0	3.1	50.0	15.6	18.8	15.6	3.1	18.8	9.4	3.1	0

は全体より10ポイント、
は全体より10ポイント、

は全体より5ポイント以上高いセル
は全体より5ポイント以上低いセル

※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_(2) 育児等に関するアンケート調査

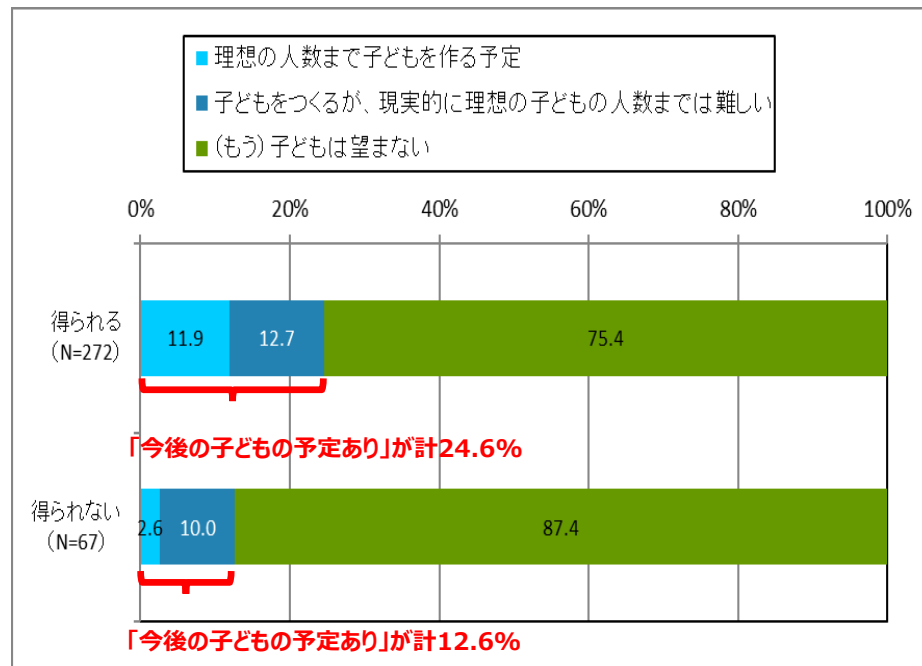
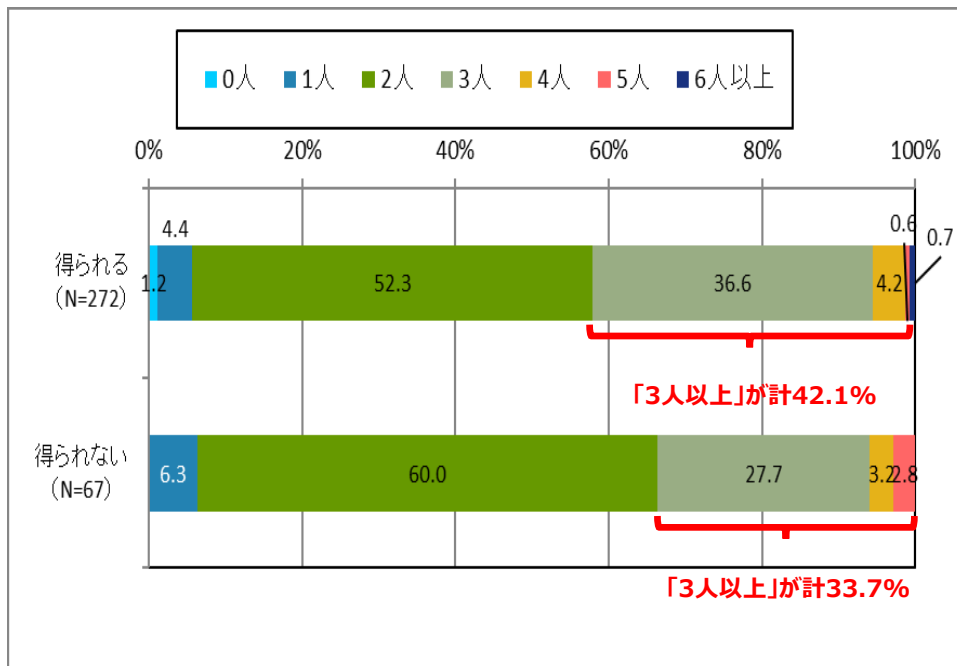
3. 親(子どもからみた祖父母)からの支援と出産意欲について

- ・ 育児において親からの協力を得られる人の方が、理想の子ども数「3人以上」、今後の子どもの予定「あり」と回答した人の割合が高い。
- ・ 子どもを持つにあたって経済状況を重視する人が多いため、親からの経済面での支援も強力な援軍の一つとなる可能性が高い。

親からの手厚い経済的支援・育児における協力等を期待できる家庭において、出産意欲がより高まる傾向が伺える。

親の協力と理想の子ども人数

理想の子ども的人数を「3人以上」と回答した人：親の協力を得られる人は42.1%、親の協力を得られない人は33.7%
 「今後子どもをつくる」と回答した人：親の協力を得られる人は24.6%、親の協力を得られない人は12.6%



2 アンケート調査結果について_ (2) 育児等に関するアンケート調査

4. 夫の家事・育児参加状況とそれに対する妻の満足度

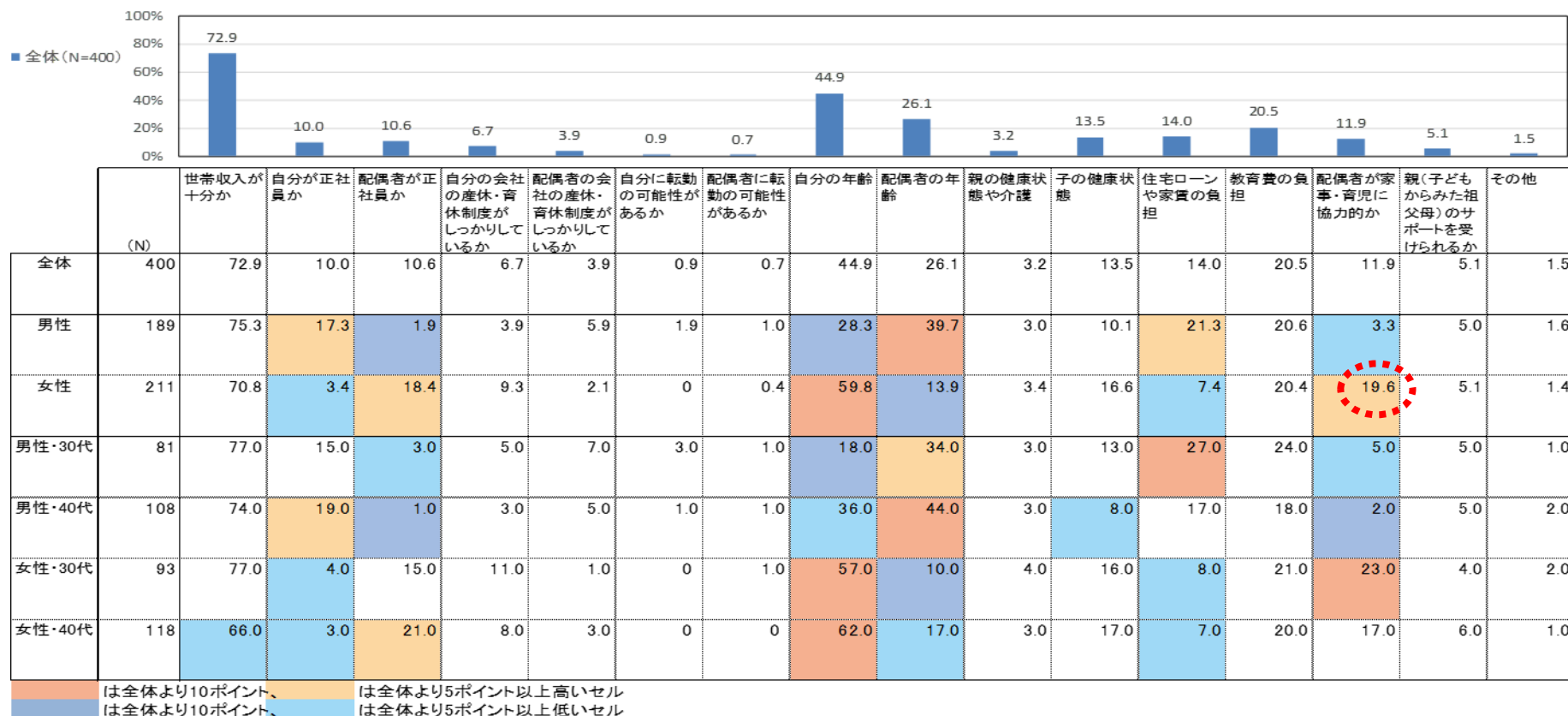
- 子どもを持つにあたって重視することとして「夫が家事・育児に協力的か」と回答した女性が19.6%であり、**夫の家事・育児参加状況が出産意欲に影響。**
- 夫の平日1日あたりの家事・育児への平均参加時間は「**1時間未満**」が**58.1%**。一方、夫の家事・育児参加時間に「**不満**」と回答した妻は**42.8%**。

5. 夫の育児休業等取得を阻害する要因

- 夫の育児休業等取得を阻害する要因として、「**職場の理解が得られない**」が**35.1%**、「**仕事の評価や配属に影響する**」が**9.9%**。

夫の家事・育児参加を一層促すため、企業や職場を巻き込んだ育休等取得促進や働き方改革、家事・育児参加に対する意識醸成等を図る必要。

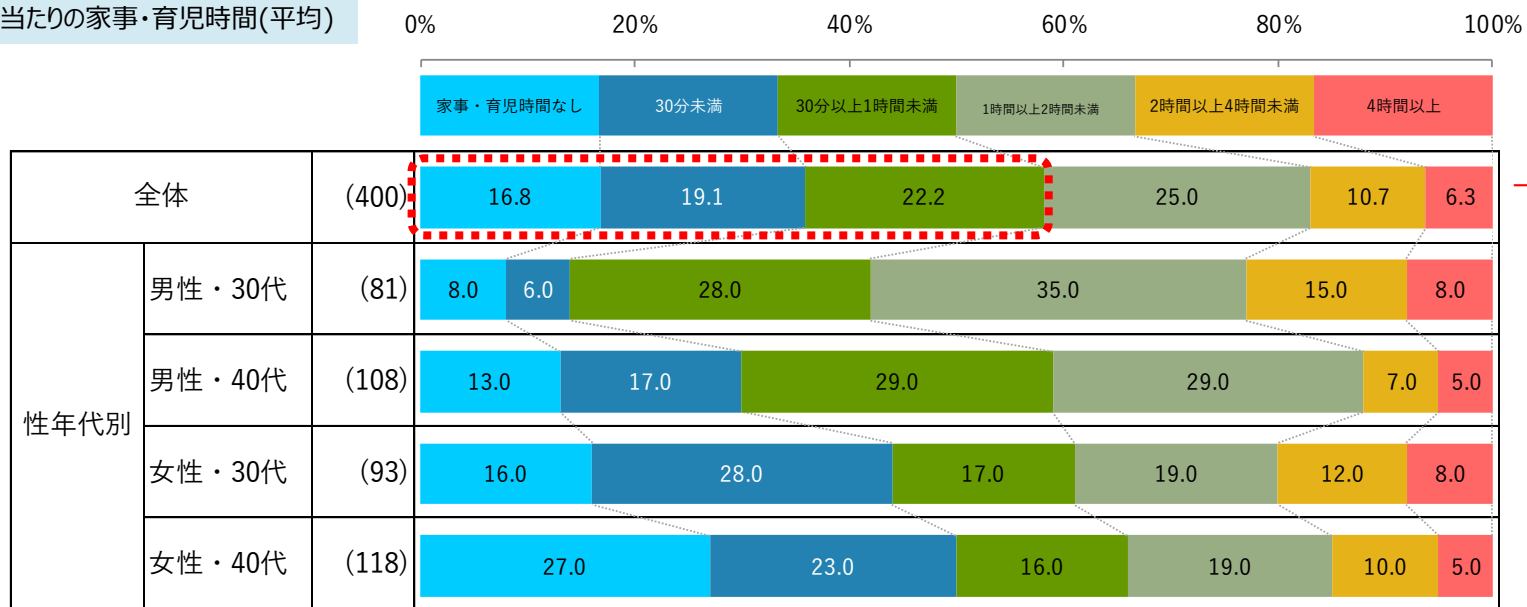
子どもを持つにあたって重視すること



2 アンケート調査結果について_(2) 育児等に関するアンケート調査

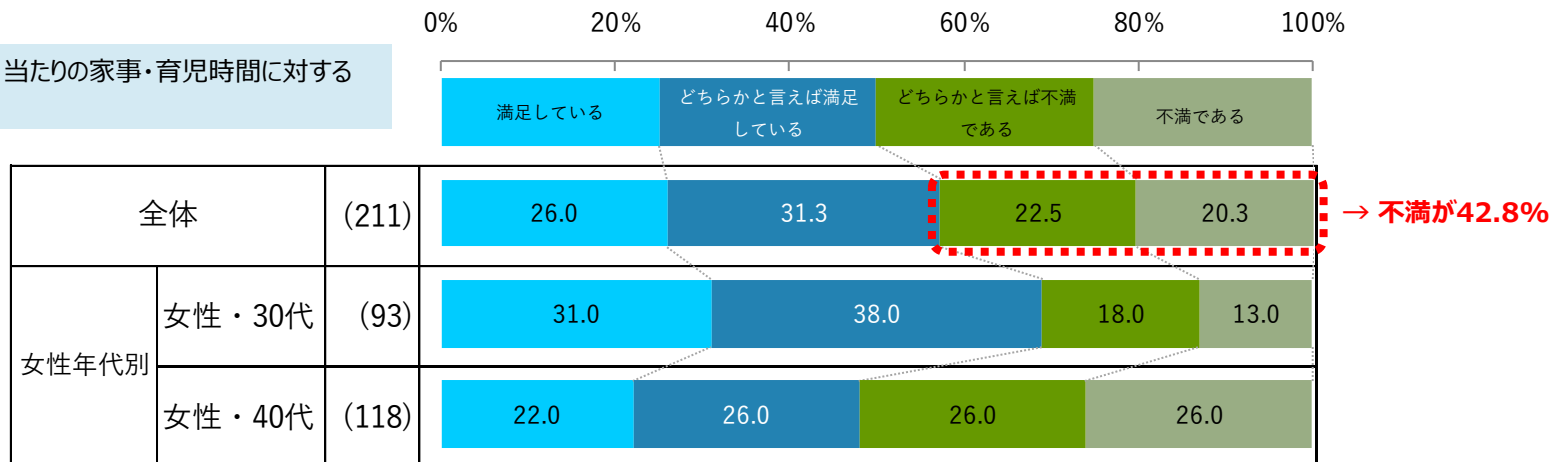
4. 夫の家事・育児参加状況とそれに対する妻の満足度

夫の平日1日当たりの家事・育児時間(平均)



→ 1時間未満が
58.1%

夫の平日1日当たりの家事・育児時間に対する妻の満足度



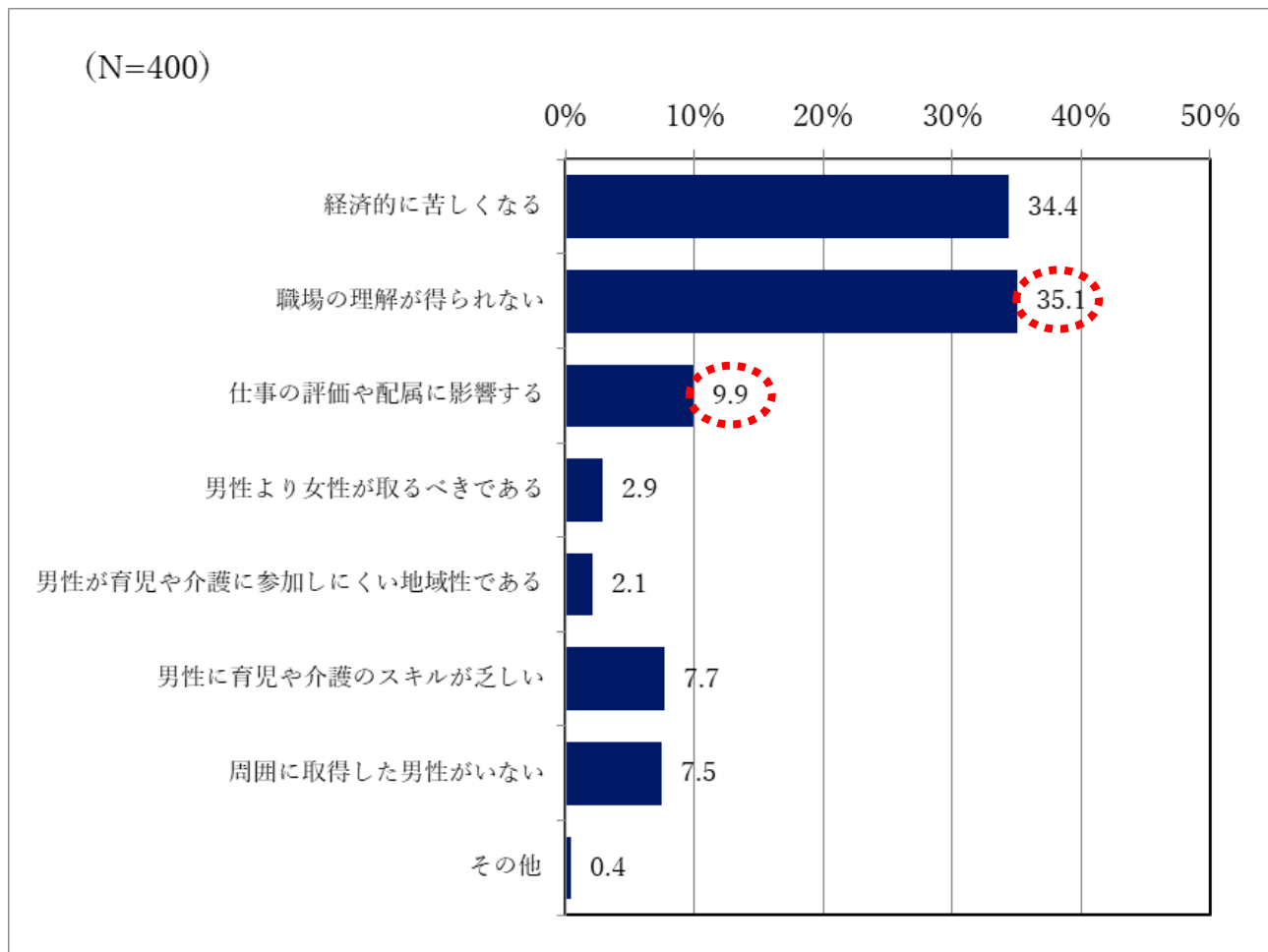
→ 不満が42.8%

2 アンケート調査結果について_(2) 育児等に関するアンケート調査

5. 夫の育児休業等取得を阻害する要因

夫の育児休業等取得を阻害する要因

「職場の理解が得られない」が35.1%、「仕事の評価や配属に影響する」が9.9%であり、企業や職場における環境が育休等取得の阻害要因となっている様子が伺える。



2 アンケート調査結果について

(3) 就職の希望等に関するアンケート調査

[対象者]松山大学、愛媛大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学に
在籍している大学生(県内大学生)

2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

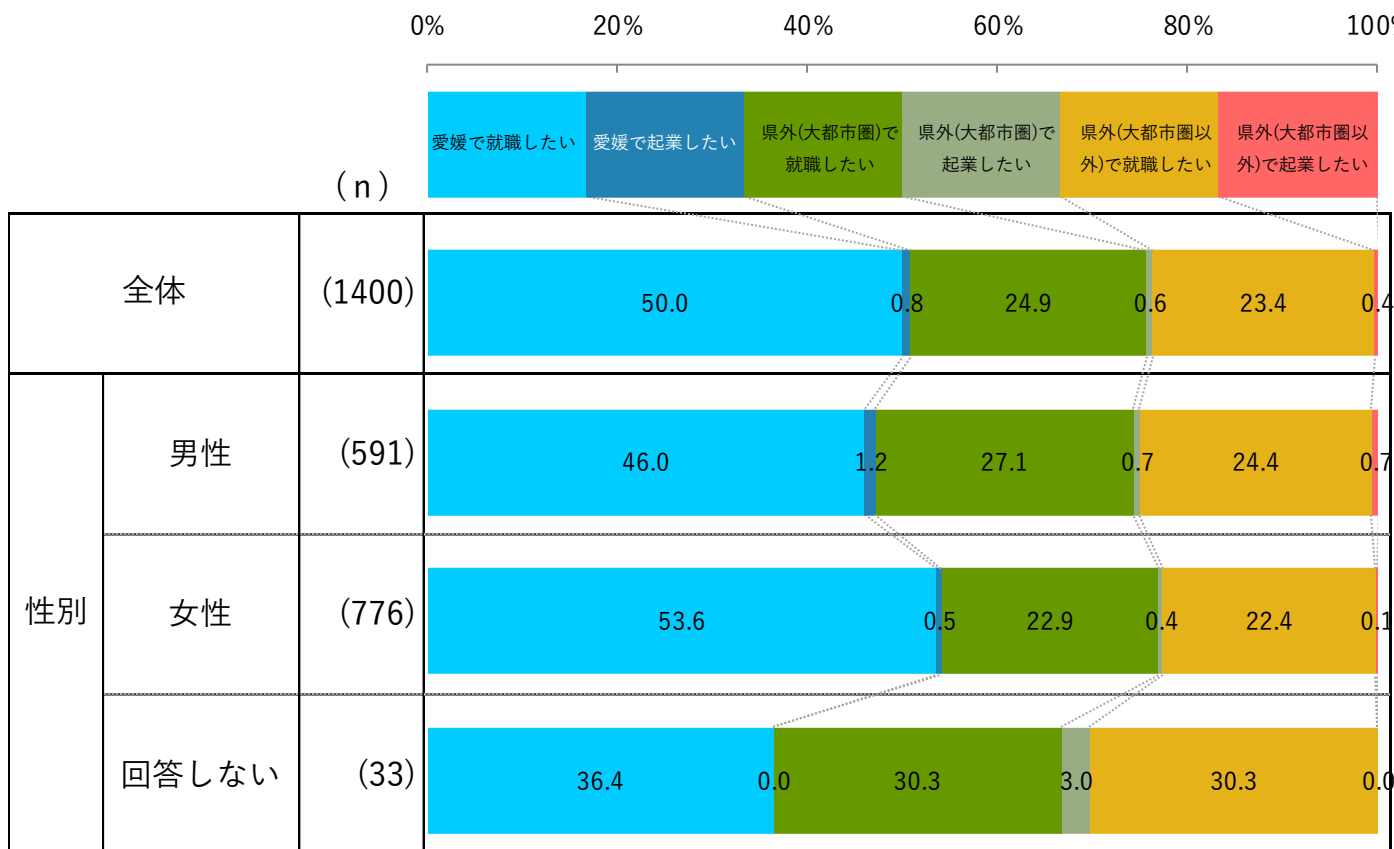
1. 就職先の希望

- ・ 男性は、愛媛県内での就職・起業希望が47.2%、愛媛県外での就職・起業希望が52.9%。
- ・ 女性は、愛媛県内での就職・起業希望が54.1%、愛媛県外での就職・起業希望が45.8%。

男女ともに約半数が県内就職・起業希望だが、県内を希望する割合は女性の方が若干高かった。

愛媛県内・外における就職・起業の意向

愛媛県内での就職・起業希望が、全体では50.8%、男性は47.2%、女性は54.1%となった。



2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

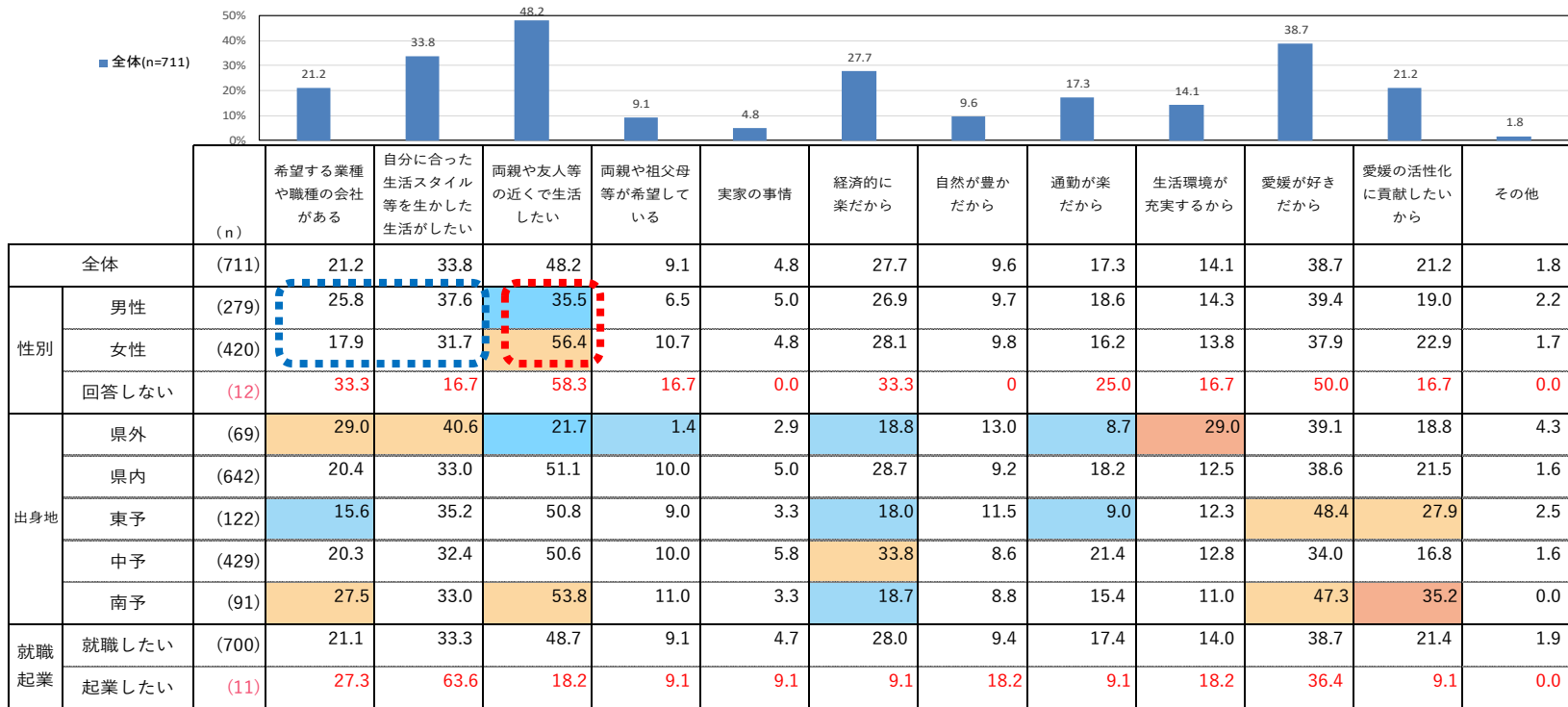
2. 愛媛県内で就職・起業したい理由

- ・「両親や友人等の近くで生活したい」と回答した人が女性56.4%・男性35.5%(女性が+20.9ポイント)
- ・「希望する業種や職種の会社がある」と回答した人が男性25.8%・女性17.9%(男性が+7.9ポイント)
- ・「自分に合った生活スタイル等をいかした生活がしたい」と回答した人が男性37.6%・女性31.7%(男性が+5.9ポイント)
- ・上記3つの回答において、大きな男女の意識差が見られた。

男性は「愛媛県内での就職先や生活スタイル等が自らの希望に合っているか」を重視する人が多く、一方、女性は「両親や友人等との縁」を愛媛県内にとどまる最も大きな理由として挙げている人が多い。

愛媛県内で就職したい理由

「両親や友人等の近くで生活したい」「希望する業種や職種の会社がある」等の回答において、大きな男女差が見られた。
また、愛媛県外出身者が愛媛県内で就職したい理由として、「生活環境が充実するから」と回答した人の割合が相対的に高い。



は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上高いセル
は全体より10ポイント、
は全体より5ポイント以上低いセル

※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

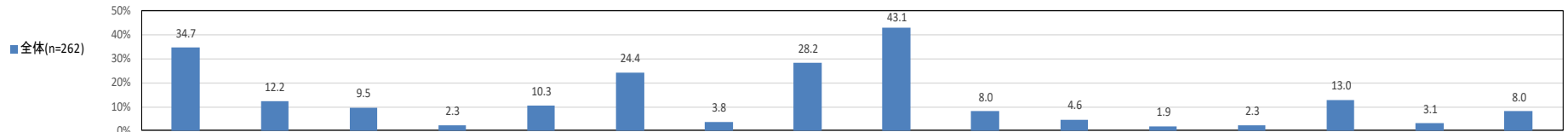
3. 愛媛県外で就職・起業したい理由

- ・「(愛媛は)首都圏等と比べて年収が少ない」と回答した人が男性32.7%・女性18.2%(男性が+14.5ポイント)
- ・「(愛媛は)キャリアアップできる企業が少ない」と回答した人が男性15.3%・女性7.5%(男性が+7.8ポイント)
- ・「都会での生活にあこがれを感じる」と回答した人が女性49.1%・男性35.7%(女性が+13.4ポイント)
- ・上記3つの回答において、大きな男女の意識差が見られた。

男性は「仕事や収入」、女性は「あこがれの都会的な生活」を求めて県外に出る人が相対的に多い。

愛媛県外で就職したい理由

全体では、「都会での生活にあこがれを感じる」が43.1%、「(愛媛には)希望する業種や職種の仕事が少ない」が34.7%となった。
「都会での生活にあこがれを感じる」「首都圏など比べて年収が少ない」「キャリアアップできる企業が少ない」と回答した人の割合に、大きな男女差が見られる。



		(n)	希望する業種や職種の仕事が少ない	愛媛の企業のことをあまり知らない	働きがいのある仕事や企業が少ない	安心して結婚等ができる環境が整った企業が少ない	キャリアアップできる企業が少ない	首都圏などと比べて年収が少ない	働き方など勤務環境が良くない	若者が楽しめる場所や施設が少ない	都会での生活にあこがれを感じる	自分らしさや個性を自由に表現しづらい	若者が少ない(出会いが少ない)	女性に対する偏見や差別意識が残っている	若者が活躍できる場や機会が少ない	煩わしい人間関係から離れたたい	家庭内の事情のため(親の希望等)	その他
全体		(262)	34.7	12.2	9.5	2.3	10.3	24.4	3.8	28.2	43.1	8.0	4.6	1.9	2.3	13.0	3.1	8.0
学年	1年生	(69)	31.9	20.3	8.7	1.4	10.1	26.1	2.9	31.9	43.5	7.2	1.4	0.0	0.0	7.2	1.4	5.8
	2年生	(64)	32.8	17.2	4.7	1.6	1.6	32.8	3.1	29.7	46.9	7.8	3.1	1.6	6.3	23.4	1.6	9.4
	3年生	(48)	35.4	8.3	14.6	2.1	4.2	14.6	0.0	31.3	45.8	8.3	8.3	2.1	2.1	10.4	2.1	8.3
	4年生以上	(81)	38.3	3.7	11.1	3.7	21.0	22.2	7.4	22.2	38.3	8.6	6.2	3.7	1.2	11.1	6.2	8.6
性別	男性	(98)	35.7	13.3	11.2	2.0	15.3	32.7	5.1	24.5	35.7	5.1	6.1	0.0	2.0	13.3	5.1	10.2
	女性	(159)	34.6	11.9	8.8	2.5	7.5	18.2	3.1	30.2	49.1	9.4	3.1	3.1	2.5	13.2	1.9	6.3
	回答しない	(5)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

は全体より10ポイント、は全体より5ポイント以上高いセル

は全体より10ポイント、は全体より5ポイント以上低いセル

※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

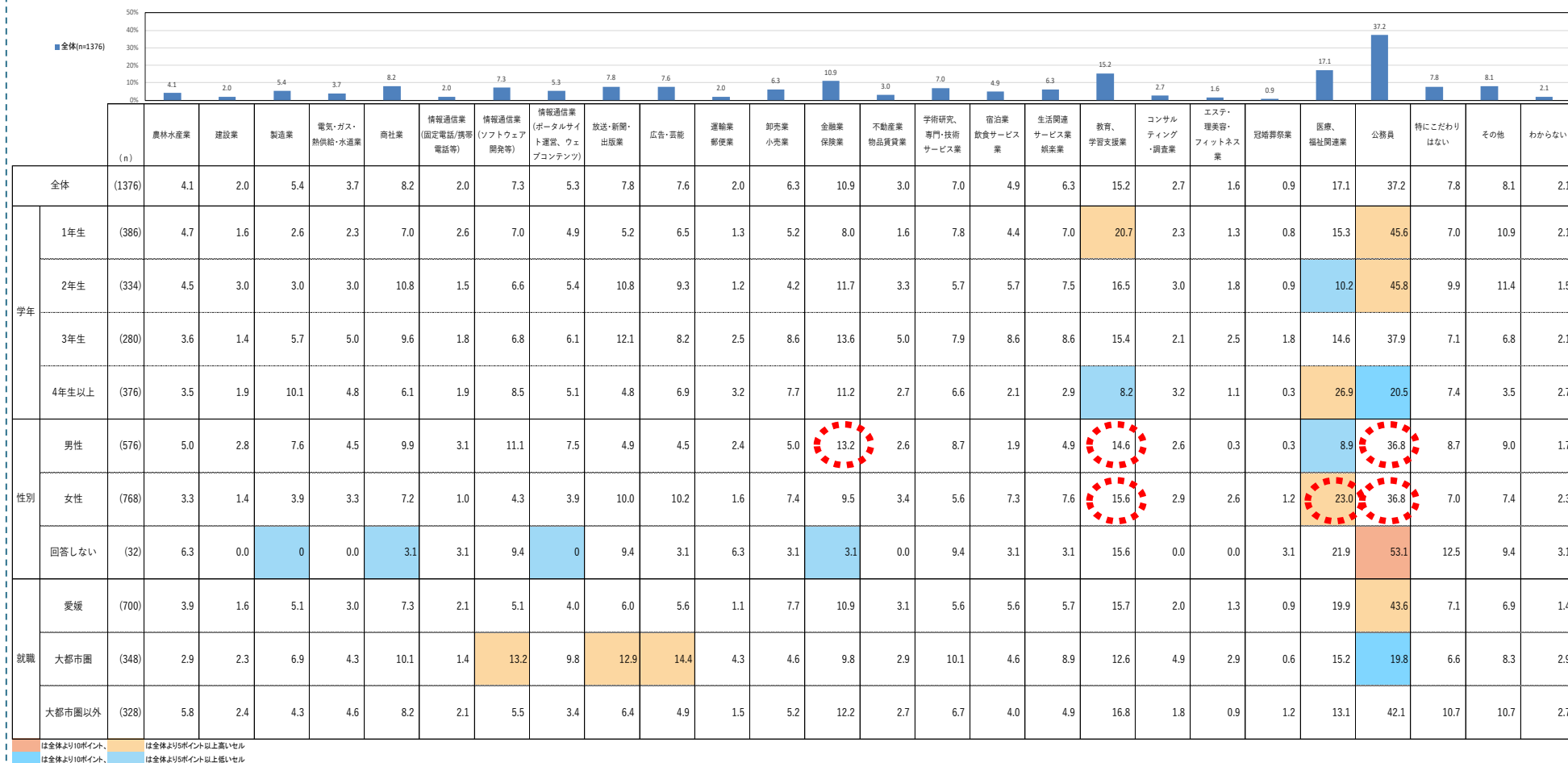
4. 就職する際の希望業種・職種

- 希望業種トップ3は、男性が「公務員」「教育、学習支援業」「金融業、保険業」、女性が「公務員」「医療、福祉関連業」「教育、学習支援業」。
- 希望職種トップ3は、男性が「事務職」「営業職」「企画職」、女性が「事務職」「企画職」「医療・介護・福祉職」。

業種は男女いずれも「公務員」が一番人気。職種は「事務職」「企画職」が男女に共通して人気。

希望する業種

全体では、「公務員」が37.2%、「医療・福祉関連業」が17.1%、「教育、学習支援業」が15.2%となった。

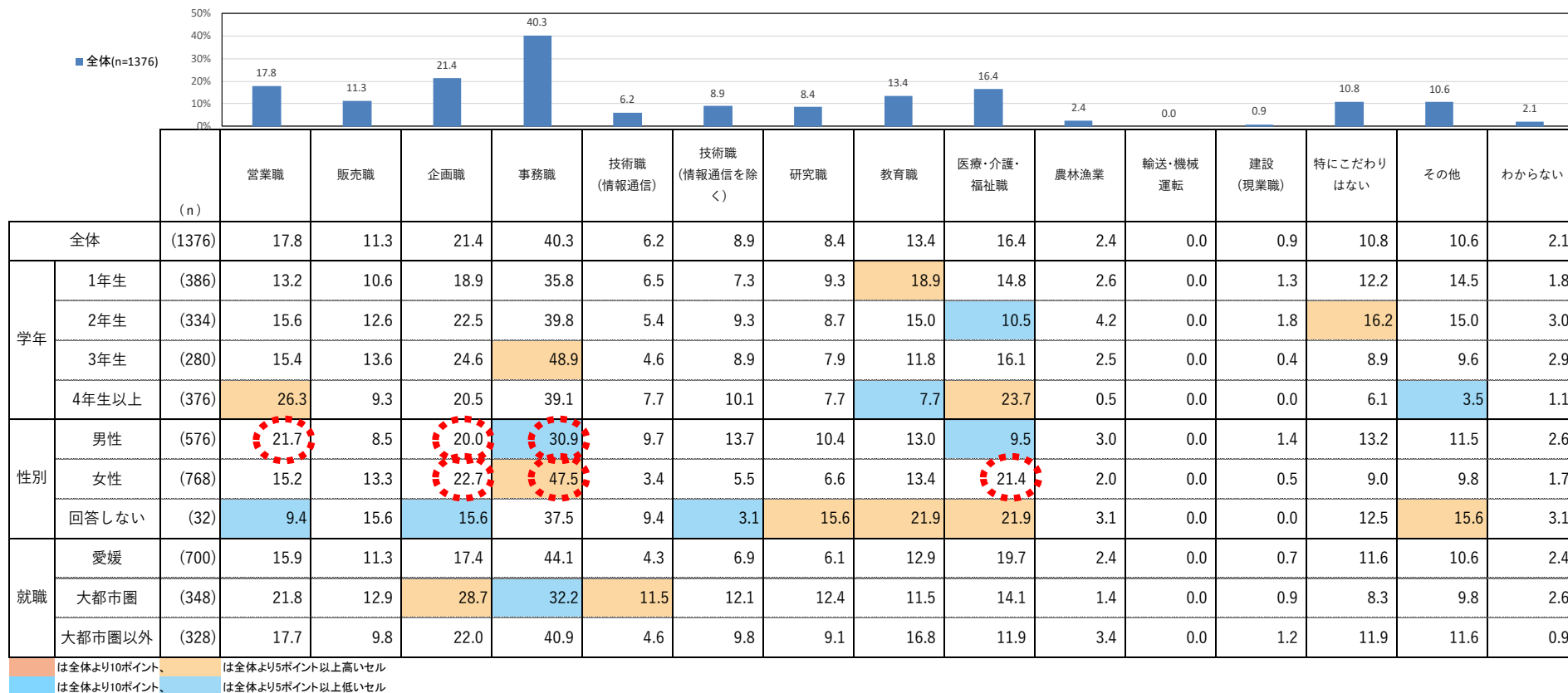


2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

4. 就職する際の希望業種・職種

希望する職種

全体では、「事務職」が40.3%、「企画職」が21.4%、「営業職」が17.8%となった。



2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

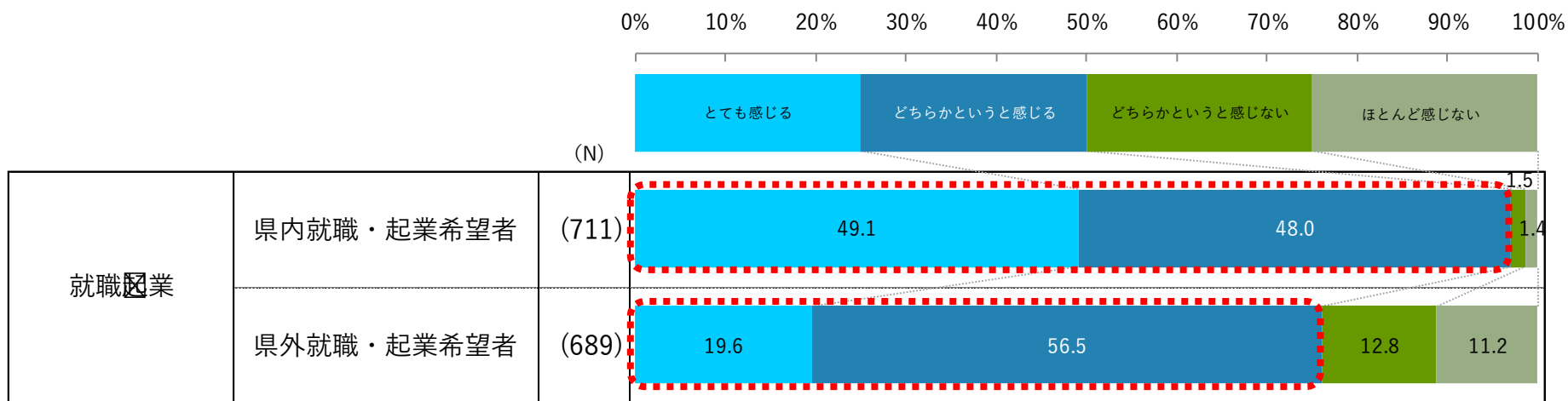
5. 愛媛県に対する愛着と県外転出について

- ・ 県内就職・起業希望者のうち、「愛媛県に愛着を感じる」と回答した人は**97.1%**。
- ・ 一方、県外就職・起業希望者のうち、「愛媛県に愛着を感じる」と回答した人は**76.1%**。

「愛媛県に対する愛着の有・無」と「就職・起業先が県内か・県外か」については、一定の相関関係が認められた。

就職・起業の希望と愛媛県への愛着

県内就職・起業希望者のうち「愛媛県に愛着を感じている」と回答した人は97.1%、県外就職・起業希望者は76.1%。



2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

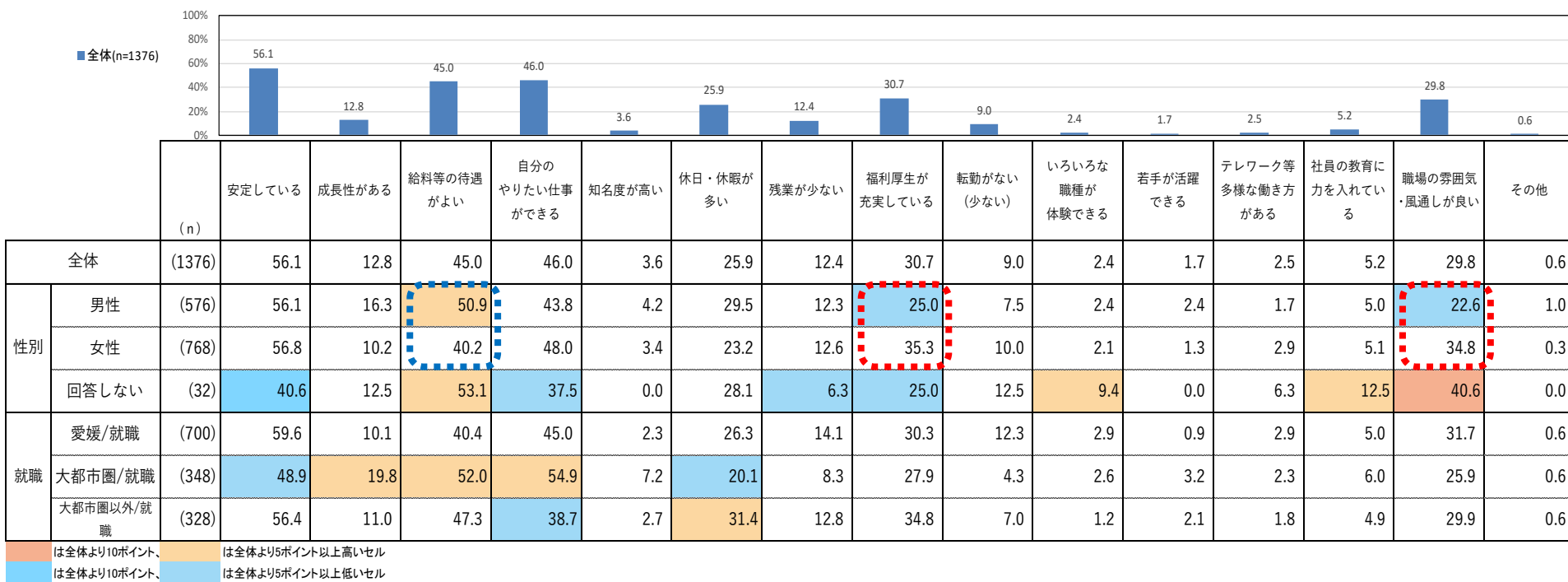
6. 就職先企業を選択する際に重視すること

- ・「給料等の待遇がよい」と回答した人が男性50.9%・女性40.2%(男性が+10.7ポイント)
- ・「職場の雰囲気・風通しが良い」と回答した人が女性34.8%・男性22.6%(女性が+12.2ポイント)
- ・「福利厚生が充実している」と回答した人が女性35.3%・男性25.0%(女性が+10.3ポイント)
- ・上記3つの回答において、大きな男女の意識差が見られた。

男女が共通して重視する「安定している」「自分のやりたい仕事ができる」等に加え、男性は「給料等の待遇」を、女性は「福利厚生の充実度も含めた職場の環境や雰囲気等」を重視する人が多い。

就職先企業を選択する際に重視すること

全体では、「安定している」が56.1%、「自分のやりたい仕事ができる」が46.0%、「給料等の待遇が良い」が45.0%となった。
「給料等の待遇が良い」「福利厚生が充実している」「職場の雰囲気・風通しが良い」と回答した人の割合に、大きな男女差が見られた。



2 アンケート調査結果について_ (3) 就職の希望等に関するアンケート調査

7. 就職先企業を選択する際に重視する職場環境

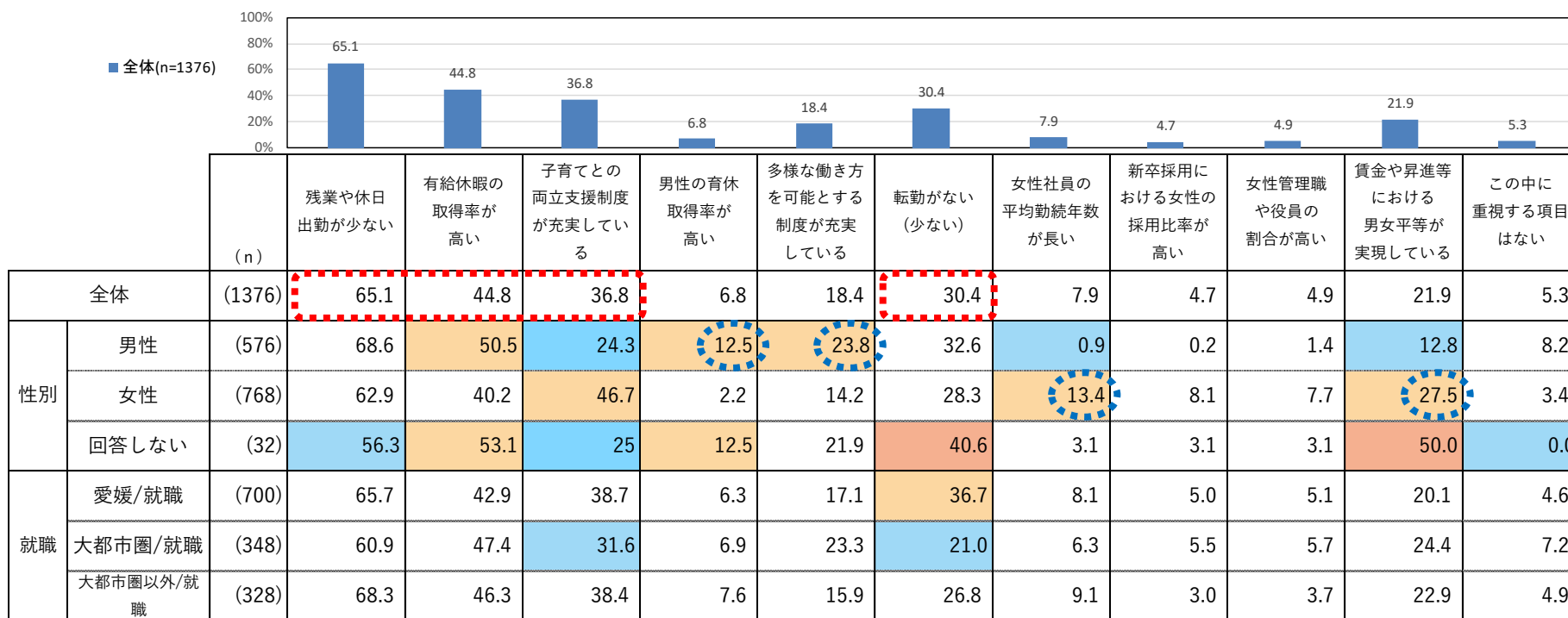
- 全体では「残業や休日出勤が少ない」「有給休暇の取得率が高い」「子育てとの両立支援制度が充実」「転勤がない(少ない)」との回答が多かった。
- 上記に加え、男性は、「多様な働き方を可能とする制度が充実」「男性の育休取得率が高い」との回答が一定数みられた。
- 一方、女性は、「賃金や昇進等における男女平等」「女性社員の平均勤続年数が高い」との回答が一定数みられた。

男女が共通して重視しているものは、「休暇」、「総労働時間」、「育児との両立支援制度」、「転勤」に関する事項。

上記以外で女性が重視するものは、「賃金や昇進等における男女平等」、「女性社員の平均勤続年数(女性にとっての働きやすさ・居心地の良さ)」であり、「女性管理職や役員の割合の高さ」を重視する女性は相対的に少ない傾向が見受けられた。

就職先企業を選択する際に重視する職場環境

全体では、「残業や休日出勤が少ない」が65.1%、「有給休暇の取得率が高い」が44.8%となった。



は全体より10ポイント、は全体より5ポイント以上高いセル

は全体より10ポイント、は全体より5ポイント以上低いセル

2 アンケート調査結果について

(4) Uターンの希望等に関するアンケート調査

[対象者] 愛媛県出身で、愛媛県外の大学に進学した大学生
(県外大学生)

2 アンケート調査結果について_ (4) Uターンの希望等に関するアンケート調査

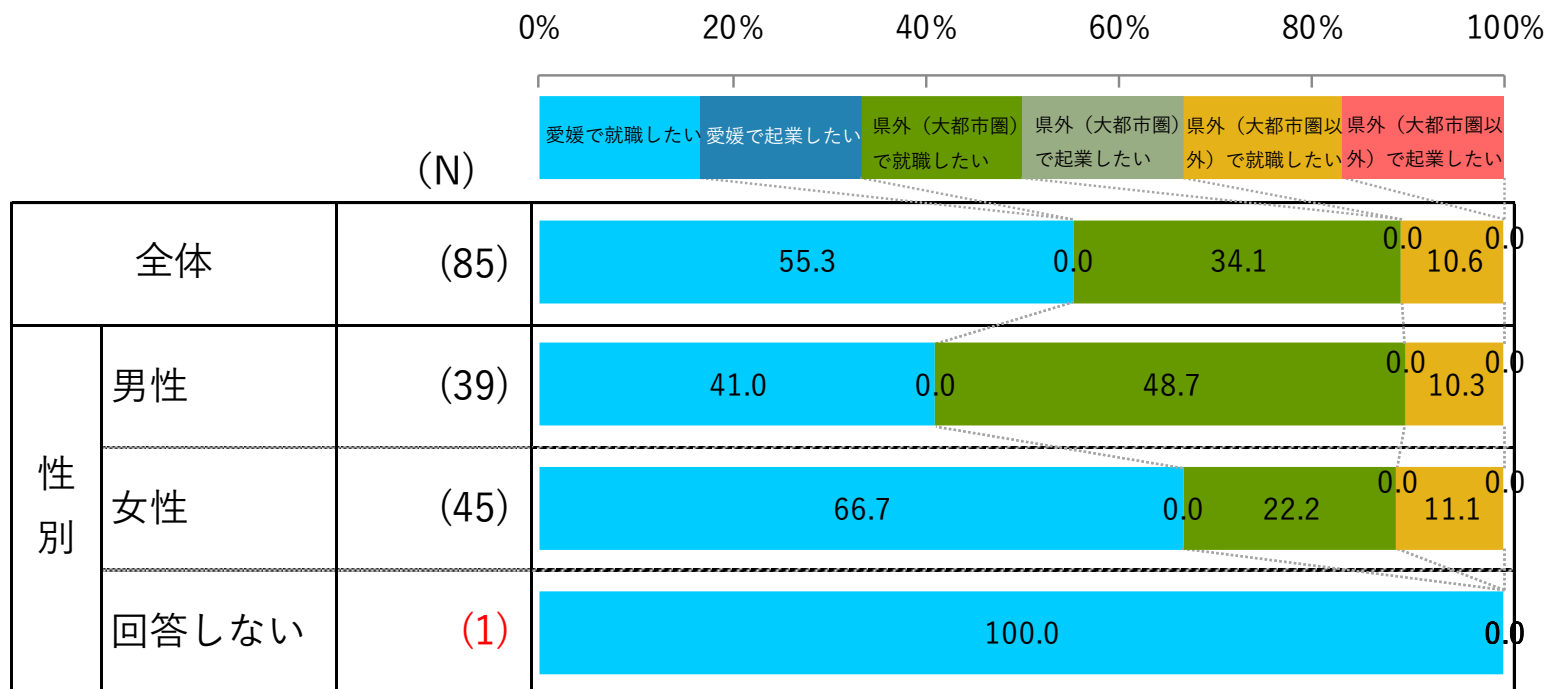
1. 就職先の希望

- ・ 男性は、愛媛県内での就職・起業希望が**41.0%**、愛媛県外での就職・起業希望が**59.0%**。
- ・ 女性は、愛媛県内での就職・起業希望が**66.7%**、愛媛県外での就職・起業希望が**33.3%**。

県内大学生を対象としたアンケート調査(就職の希望等に関するアンケート調査)と同様、県内を希望する割合は女性の方が高かった。

愛媛県内・外における就職・起業の意向

愛媛県内での就職・起業希望が、全体では55.3%、男性は41.0%、女性は66.7%となった。



※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_(4) Uターンの希望等に関するアンケート調査

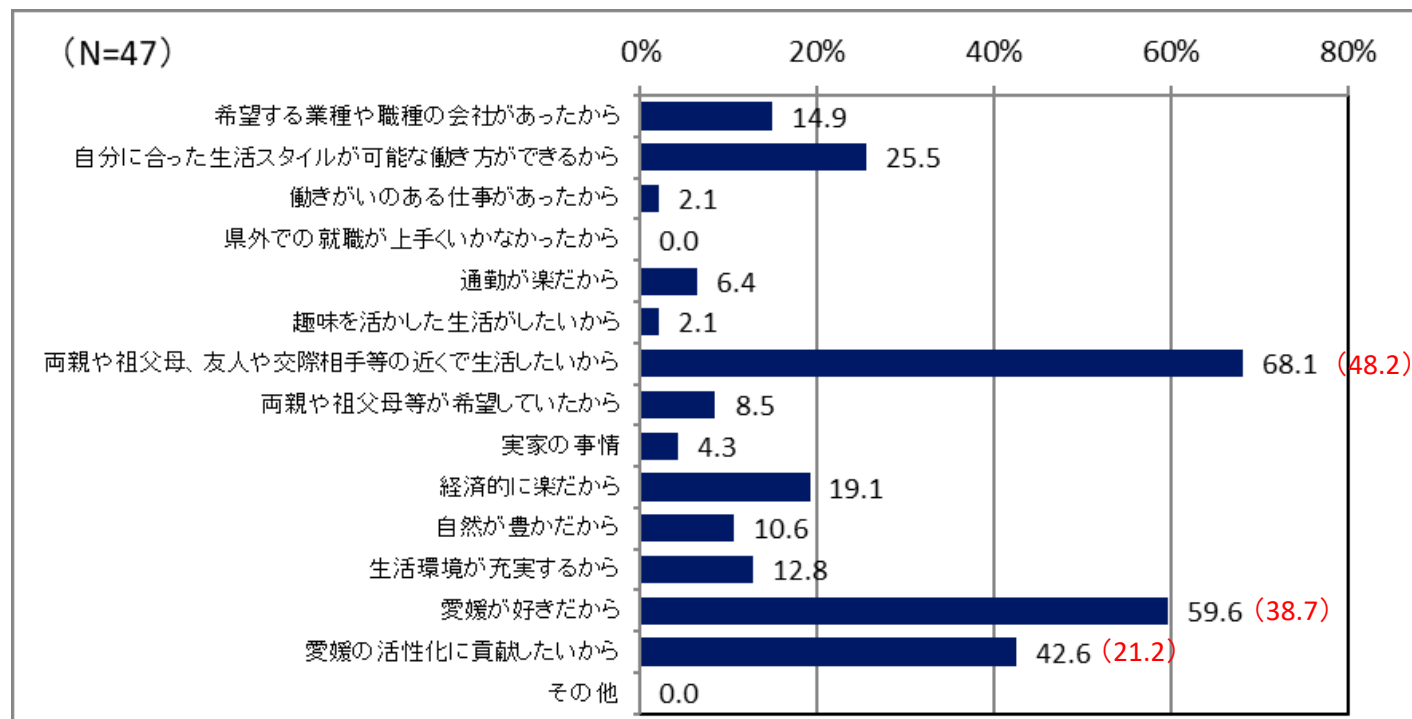
2. 愛媛県内で就職・起業したい理由

- ・ 県内大学生を対象としたアンケート(就職の希望等に関するアンケート調査)と比較して、「両親や友人等の近くで生活したい」「愛媛が好きだから」「愛媛の活性化に貢献したい」と回答した割合が20%程度高い。
 - 「両親や友人等の近くで生活したい」：県外大学生は68.1%、県内大学生は48.2% (県外大学生が+19.9ポイント)
 - 「愛媛が好きだから」：県外大学生は59.6%、県内大学生は38.7% (県外大学生が+20.9ポイント)
 - 「愛媛の活性化に貢献したい」：県外大学生は42.6%、県内大学生は21.2% (県外大学生が+21.4ポイント)

両親や友人と離れての一人暮らし、見知らぬ土地での生活を経験した県外大学生にとって、「両親や友人等との縁」「愛媛県に対する望郷の念」が愛媛県へのUターン就職の大きなモチベーションとなっている様子が伺える。

愛媛県内で就職したい理由

「両親や祖父母、友人や交際相手等の近くで生活したいから」が68.1%、「愛媛が好きだから」が59.6%、「愛媛の活性化に貢献したいから」が42.6%となった。



※()は、
県内大学生対象の
アンケート調査(就職
の希望等に関するア
ンケート調査)で同様
の質問をした際の回
答割合

2 アンケート調査結果について_(4) Uターンの希望等に関するアンケート調査

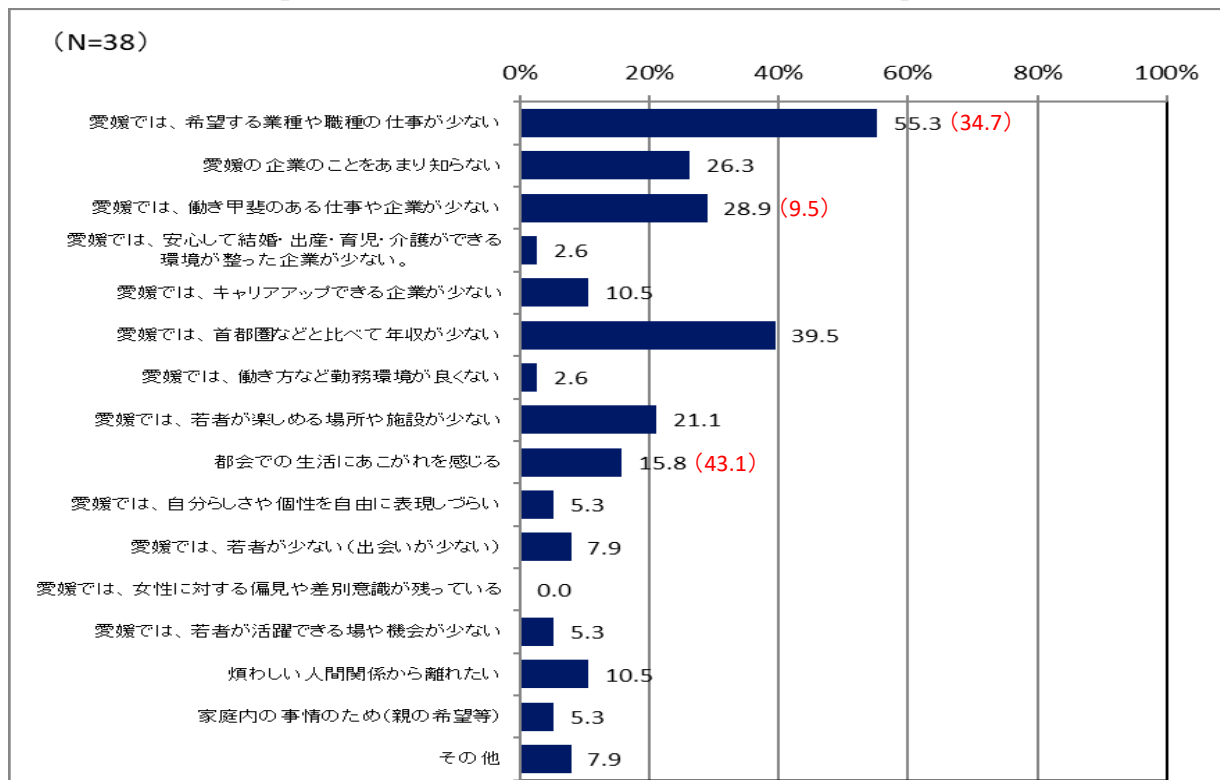
3. 愛媛県外で就職・起業したい理由

- ・ 県内大学生を対象としたアンケート(就職の希望等に関するアンケート調査)と比較して、「(愛媛は)希望する業種や職種の仕事が少ない」「(愛媛は)働きがいのある仕事や企業が少ない」と回答した割合が20%程度高く、一方、「都会での生活にあこがれを感じる」と回答した割合は30%弱程度低い。
 - 「(愛媛は)希望する業種や職種の仕事が少ない」：県外大学生は55.3%、県内大学生は34.7% (県外大学生が+20.6ポイント)
 - 「(愛媛は)働きがいのある仕事や企業が少ない」：県外大学生は28.9%、県内大学生は9.5% (県外大学生が+19.4ポイント)
 - 「都会での生活にあこがれを感じる」：県外大学生は15.8%、県内大学生は43.1% (県外大学生が▲27.3ポイント)

大都市圏に本社を置く大企業等に身近に触れる機会がある県外大学生が、愛媛県内企業にあまり魅力を感じていない様子が伺える。一方、実際に都会での生活を経験したことで、都会生活に対するあこがれの気持ちは大きく低下している。

愛媛県外で就職したい理由

「愛媛では、希望する業種や職種の仕事が少ない」が55.3%、「愛媛では、首都圏などと比べて年収が少ない」が39.5%となった。



※()は、
県内大学生対象の
アンケート調査(就職
の希望等に関するア
ンケート調査)で同様
の質問をした際の回
答割合

2 アンケート調査結果について_(4) Uターンの希望等に関するアンケート調査

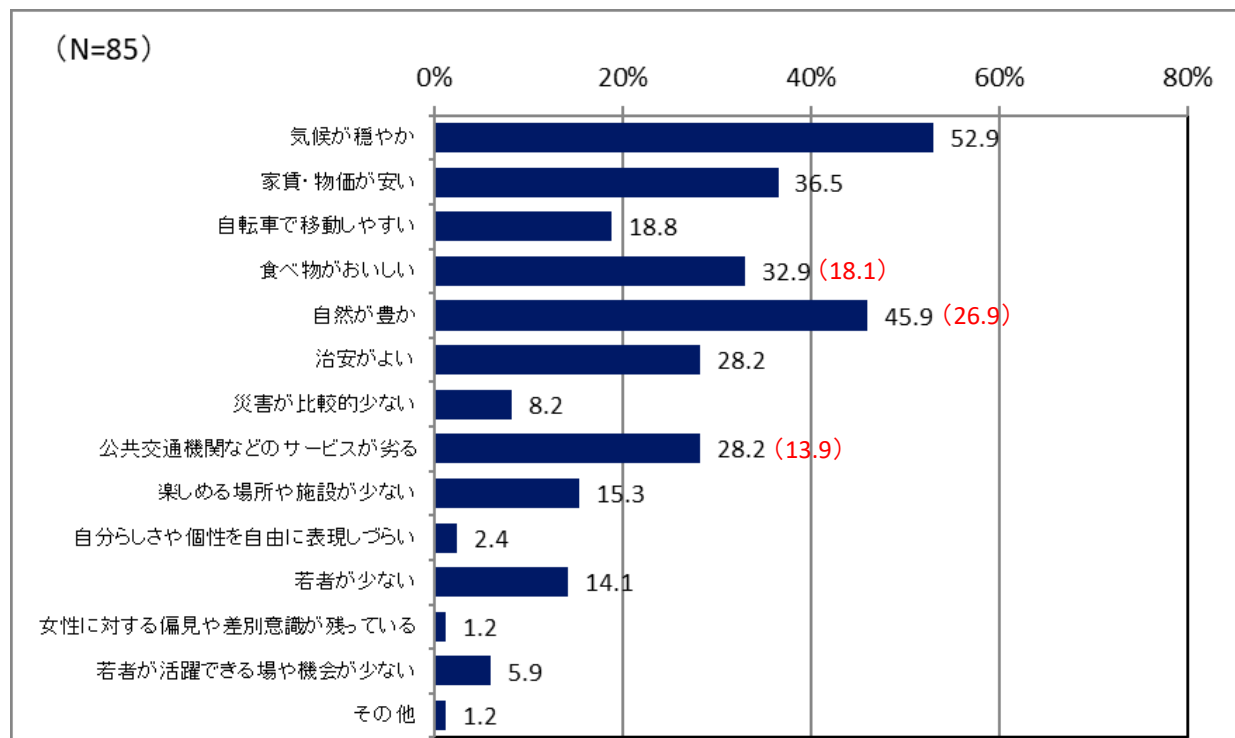
4. 愛媛県に対するイメージ・愛着について

- ・ 県内大学生を対象としたアンケート(就職の希望等に関するアンケート調査)と比較して、「自然が豊か」「食べ物がおいしい」「公共交通機関等のサービスが劣る」と回答した割合が高い。
 - 「自然が豊か」：県外大学生は45.9%、県内大学生は26.9% (県外大学生が+19.0ポイント)
 - 「食べ物がおいしい」：県外大学生は32.9%、県内大学生は18.1% (県外大学生が+14.8ポイント)
 - 「公共交通機関等のサービスが劣る」：県外大学生は28.2%、県内大学生は13.9% (県外大学生が+14.3ポイント)

大都市圏等で生活している県外大学生が、主に「自然」「食べ物」の観点から、愛媛県の素晴らしさを再認識している様子が伺える。一方、公共交通機関網が(大都市圏等と比較して)見劣りするよう感じている。

愛媛県に対するイメージ

肯定的回答では、「気候が穏やか」が52.9%、「自然が豊か」が45.9%となる一方で、否定的回答では、「公共交通機関などのサービスが劣る」が28.2%、「楽しめる場所や施設が少ない」が15.3%となった。



※()は、
県内大学生対象の
アンケート調査(就職
の希望等に関するア
ンケート調査)で同様
の質問をした際の回
答割合

2 アンケート調査結果について

(5) Uターン等に関するアンケート調査

[対象者] 愛媛県出身で、愛媛県外の大学等に進学後、
新卒で愛媛県内企業にUターン就職した20代社会人

2 アンケート調査結果について_(5) Uターン等に関するアンケート調査

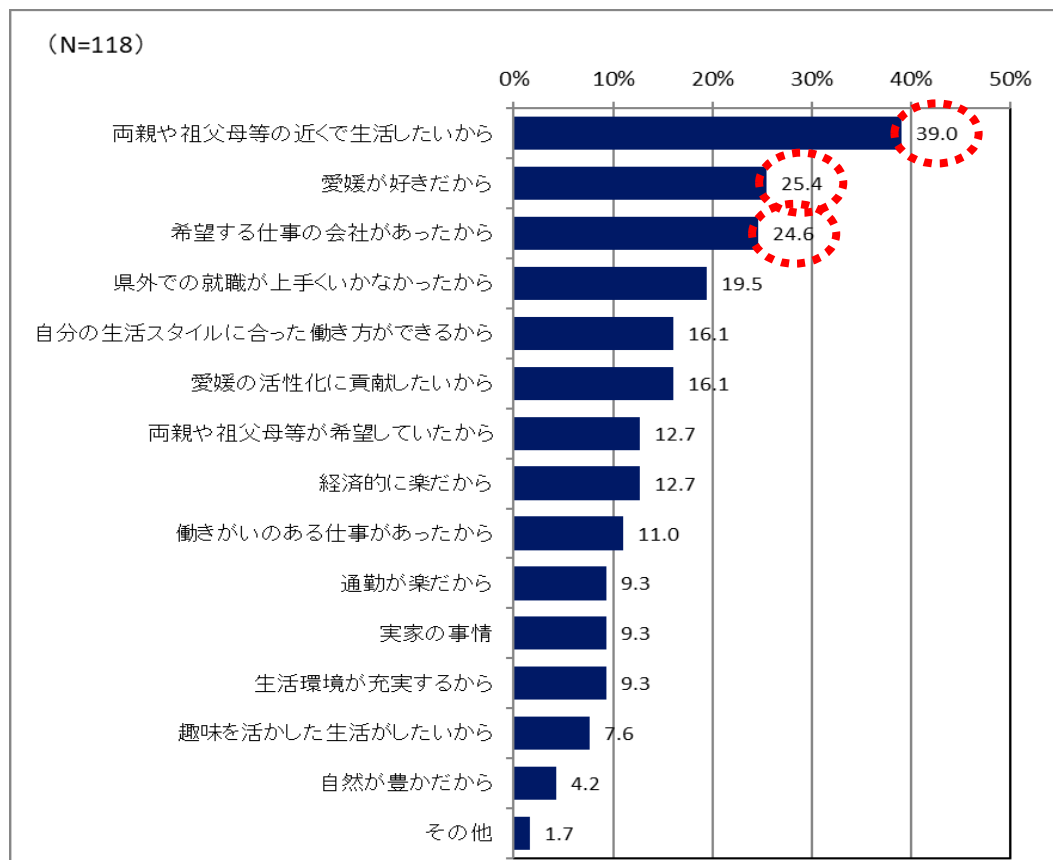
1. 愛媛県内にUターン就職した理由

- ・トップ3は、①「両親や祖父母等の近くで生活したいから」、②「愛媛が好きだから」、③「希望する仕事の会社があったから」。

県外大学生を対象としたアンケート調査(Uターンの希望等に関するアンケート調査)によって、県外大学生にとって「両親や友人等との縁」「愛媛県に対する望郷の念」がUターン就職のモチベーションとなっている事実が判明したが、それを裏付けるような調査結果となっている。前述の2点に加えて、県外大学生が希望する「仕事・企業」を県内に確保することが、Uターン就職の増加に結び付くものと思われる。

愛媛県内にUターン就職した理由

「両親や祖父母等の近くで生活したいから」が39.0%、「愛媛が好きだから」が25.4%、「希望する仕事の会社があったから」が24.6%となった。



2 アンケート調査結果について_(5) Uターン等に関するアンケート調査

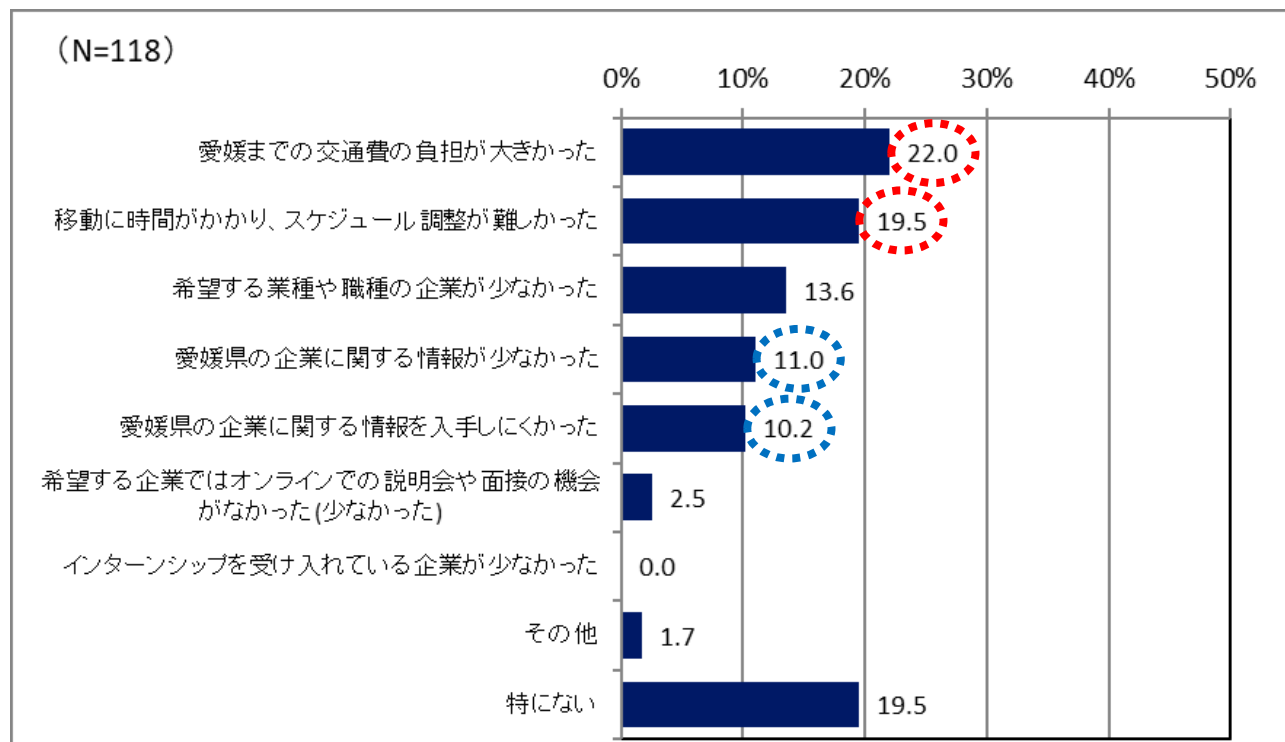
2. 愛媛県内へのUターン就職活動において障害に感じたこと

- ① 「愛媛までの交通費の負担が大きかった」が22.0%、「移動に時間がかかり、スケジュール調整が難しかった」が19.5%。
- ② 「愛媛の企業に関する情報が少なかった」が11.0%、「愛媛の企業に関する情報を入手しにくかった」が10.2%。

「愛媛までの移動に伴う経済的・時間的負担(上記①)」と「愛媛県内企業に関する情報入手の困難さ(上記②)」を挙げる人が多かった。

Uターン就職活動において障害に感じたこと

「愛媛までの交通費の負担が大きかった」が22.0%、「移動に時間がかかり、スケジュール調整が難しかった」が19.5%となった。



2 アンケート調査結果について_ (5) Uターン等に関するアンケート調査

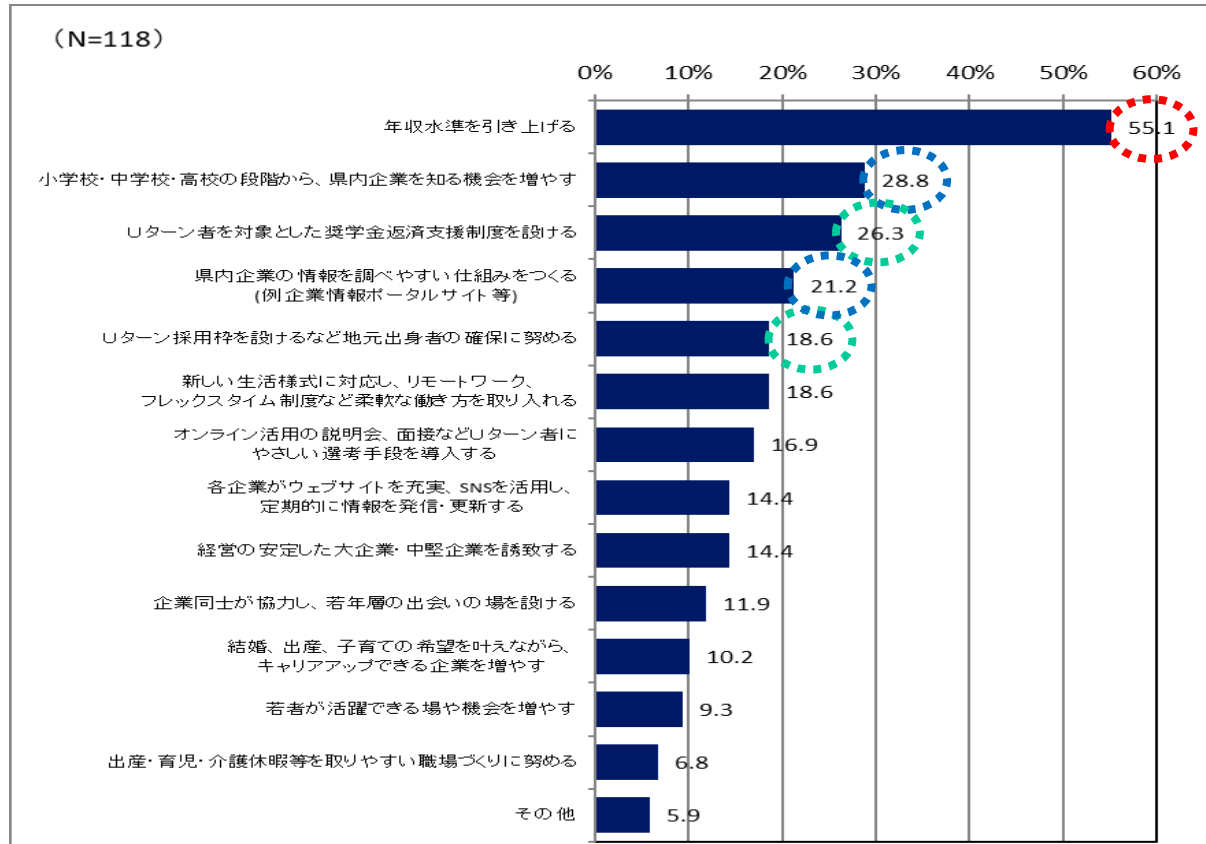
3. 愛媛県内へのUターン就職を増やすためにはどうしたらよいと思うか

- ・「年収水準を引き上げる」と回答した人が55.1%で最も多かった。
- ・次に、愛媛県内企業に関する情報発信の強化(学校教育における県内企業を知る機会の増加、県内企業情報を調べやすい仕組み)、Uターン就職者を対象とした各種優遇制度(奨学金返済支援制度、Uターン採用枠)等を挙げる人が多かった。

県外企業等と比較しても、大きく見劣りすることがない年収水準を提示できることが、Uターン就職者の増加に寄与する可能性が高い。加えて、愛媛県内企業に関する情報発信の強化、Uターン就職者ならではのメリット・優遇策の提示等も一定の効果があると思われる。

愛媛県内へのUターン就職を増やすためにはどうしたらよいと思うか

「年収水準を引き上げる」が55.1%、「学校教育の段階から、県内企業を知る機会を増やす」が28.8%、「Uターン者を対象とした奨学金返済支援制度を設ける」が26.3%となった。



2 アンケート調査結果について_ (5) Uターン等に関するアンケート調査

4. 就職先企業を選択した際に重視したこと

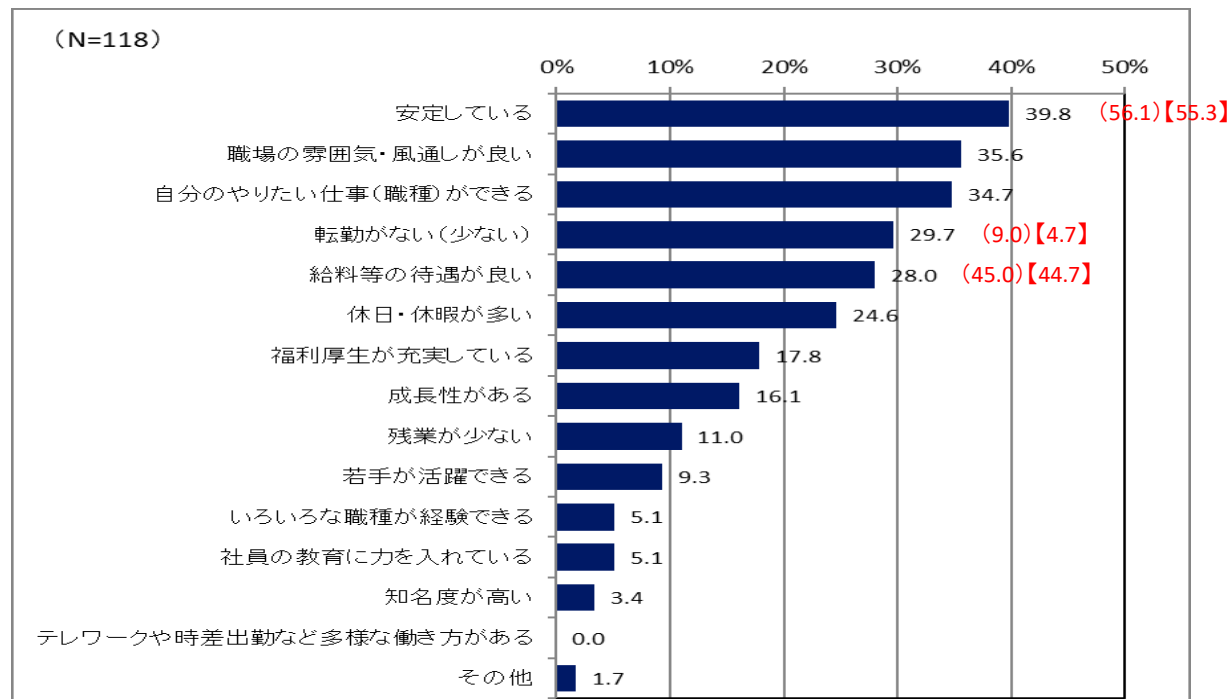
- ・ 県内・県外大学生を対象としたアンケート調査(就職の希望等に関するアンケート調査、Uターンの希望等に関するアンケート調査)と比較して、
 - 「安定している」：Uターン者は39.8%、県内大学生は56.1%、県外大学生は55.3% (大学生が高い)
 - 「給料等の待遇が良い」：Uターン者は28.0%、県内大学生は45.0%、県外大学生は44.7% (大学生が高い)
 - 「転勤がない(少ない)」：Uターン者は29.7%、県内大学生は9.0%・県外大学生は4.7% (Uターン者が高い)

大学生は「安定している」「給料等の待遇が良い」等を主に重視しているが、一方、実際にUターン就職した人は、「転勤がない(少ない)」等も一定程度重視したうえで、Uターン就職を決めた様子が伺える。

前ページ記載の「Uターン就職を増やすにはどうしたらよいか」との設問において、「年収水準を引き上げる」との回答が圧倒的に多かったことから、Uターン就職者にとって「給料等の待遇」の重要性が決して低いわけではなく、むしろ現水準以上の待遇を望んでいることが推測される。

就職企業先を選択した際に重視したこと

「安定している」が39.8%、「職場の雰囲気・風通しが良い」が35.5%、「自分のやりたい仕事(職種)ができる」が34.7%となった。



※()は、
県内大学生対象の
アンケート調査(就職
の希望等に関するア
ンケート調査)
【 】は、
県外大学生対象の
アンケート調査(U
ターンの希望等に関
するアンケート調査)
で同様の質問をした
際の回答割合

2 アンケート調査結果について

(6) 移住等に関するアンケート調査

[対象者] 愛媛県出身で、首都圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)または
関西圏(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県)在住の20代~40代

2 アンケート調査結果について_(6) 移住等に関するアンケート調査

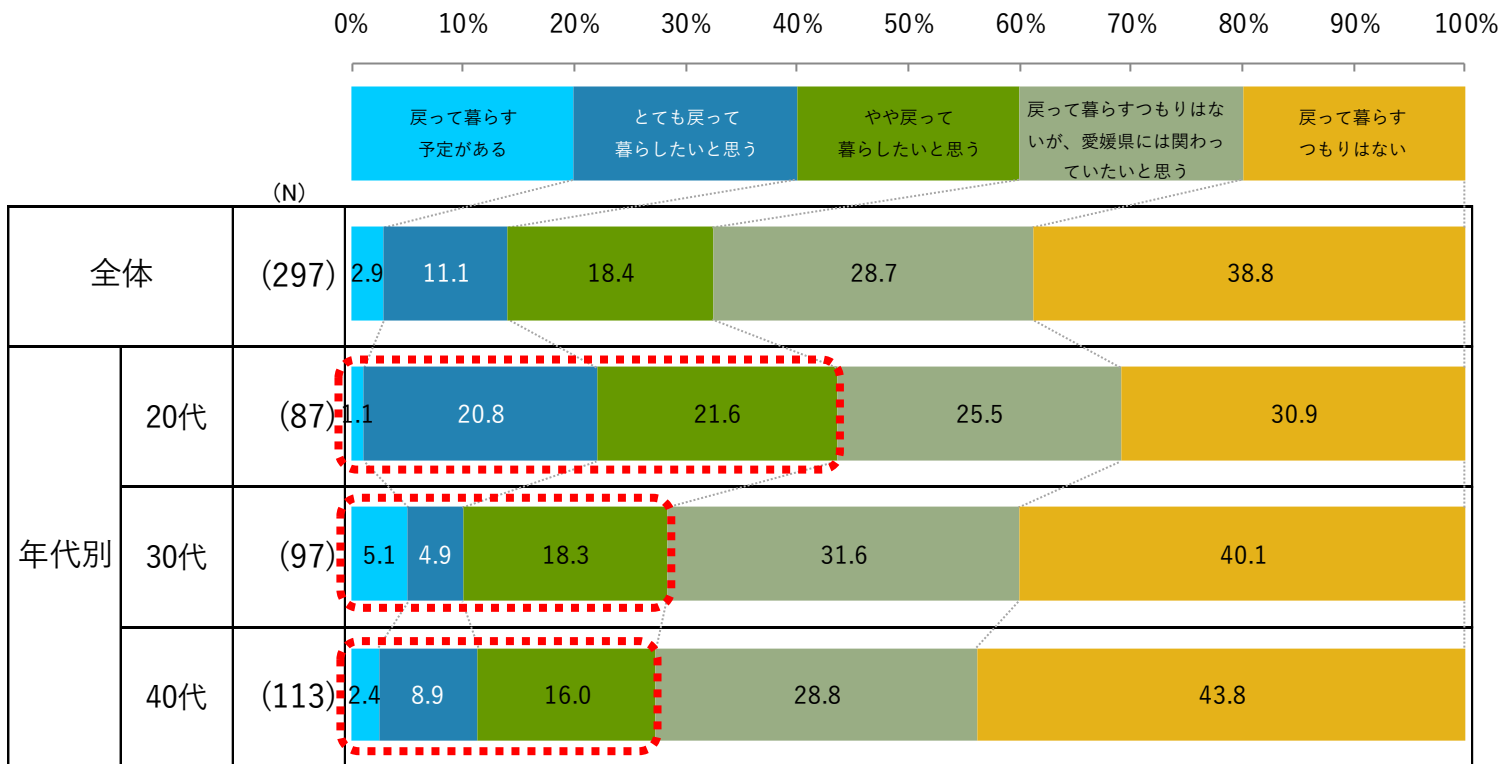
1. 愛媛県への移住意向とタイミング

- ・ 愛媛県に「戻って暮らしたい(予定含む)」と回答した割合は、20代43.5%、30代28.3%、40代27.3%と、年齢が上がるにつれて低下する傾向。
- ・ 愛媛県に移住するタイミングについては、男性は「退職後」、女性は「希望する業種や職種の仕事への就職や転職」が最も多い。

年齢が上がり、生活の基盤が固まっていくにつれ、愛媛県への移住意向が低下する傾向にある。
主に若年層をターゲットとし、希望にかなう「就職先・仕事」とセットでの移住促進策が考えられる。

愛媛県への移住意向

全体では、「戻って暮らしたい(予定含む)」が計32.4%、「戻って暮らすつもりはないが、愛媛県には関わってみたいと思う」が28.7%、「戻って暮らすつもりはない」が38.8%となった。また、年齢が若いほど愛媛県に戻りたいと回答する割合が高く、年齢が上がって生活の基盤が固まるに連れて移住意向が低下する傾向が見受けられる。

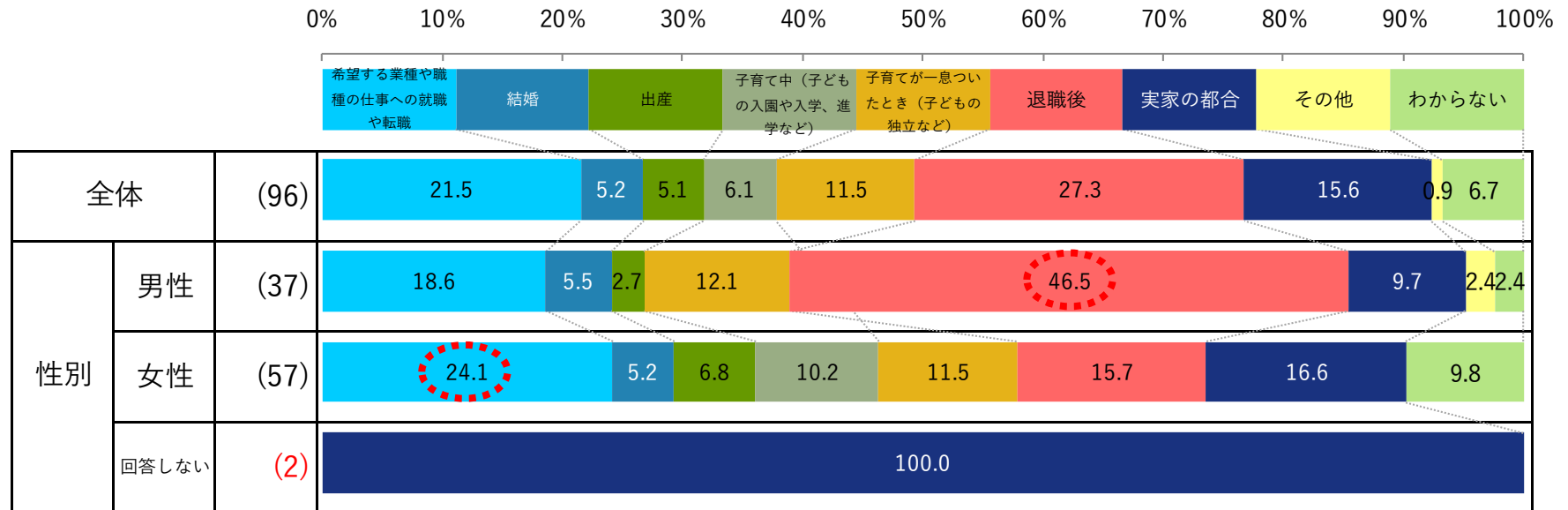


2 アンケート調査結果について_（6）移住等に関するアンケート調査

1. 愛媛県への移住意向とタイミング

愛媛県へ戻って暮らしたいタイミング

全体では、「退職後」が27.3%、「希望する業種や職種の仕事への就職や転職」が21.5%となった。
男性は「退職後」、女性は「希望する業種や職種の仕事への就職や転職」と回答した人が最も多い。



※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_(6) 移住等に関するアンケート調査

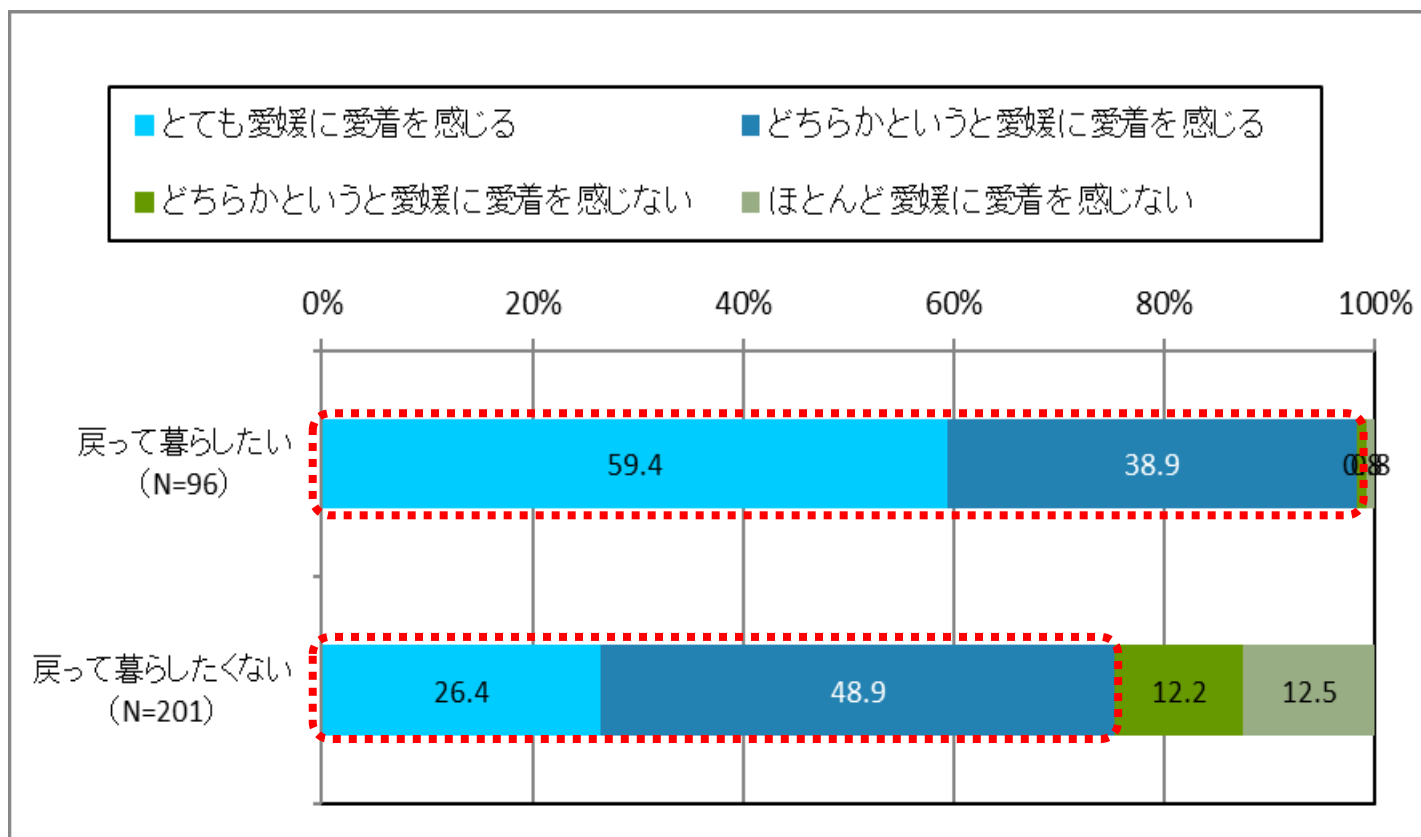
2. 愛媛県に対する愛着と移住意向について

- ・ 愛媛県に「戻って暮らしたい」と回答した人のうち、愛媛県に愛着を感じている人は計98.3%。
- ・ 一方、愛媛県に「戻って暮らすつもりはない」と回答した人のうち、愛媛県に愛着を感じている人は計75.3%にとどまる。

愛媛県に愛着を感じている人ほど、将来的に愛媛県に移住する可能性を有していることが考えられる。

愛媛県への愛着と移住意向

「戻って暮らしたい」と回答した人は、「戻って暮らしたくない」と回答した人と比較し、愛媛に愛着を感じている人の割合が高くなっている。



2 アンケート調査結果について_ (6) 移住等に関するアンケート調査

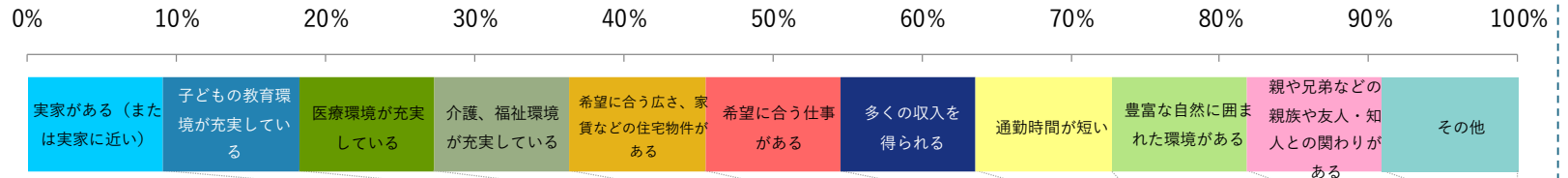
3. 愛媛県への移住に際して重視すること

- ・「実家がある(または実家に近い)」と回答した人が女性49.7%・男性34.9%(女性が+14.8ポイント)
- ・「子どもの教育環境が充実している」と回答した人が女性10.4%・男性0.0%(女性が+10.4ポイント)
- ・「豊富な自然に囲まれた環境がある」と回答した人が男性28.0%・女性6.9%(男性が+21.1ポイント)
- ・上記3つの回答において、大きな男女の意識差が見られた。

相対的に、女性は、移住に際して「実家(両親等)」や「子ども」等、自分以外の家族の生活環境や事情を優先する傾向にある。一方、男性は、「豊富な自然に囲まれた環境」等、あくまで自分にとって満足のいく生活環境かどうかを重視する傾向にある。

愛媛県への移住に際して重視すること

全体では、「実家がある(または実家に近い)」が45.0%、「豊富な自然に囲まれた環境がある」が14.9%、「希望に合う仕事がある」が10.4%となった。



性別	回答数	実家がある(または実家に近い)	子どもの教育環境が充実している	医療環境が充実している	介護、福祉環境が充実している	希望に合う広さ、家賃などの住宅物件がある	希望に合う仕事がある	多くの収入を得られる	通勤時間が短い	豊富な自然に囲まれた環境がある	親や兄弟などの親族や友人・知人との関わりがある	その他
全体	(96)	45.0	6.2	2.0	0.8	5.9	10.4	4.5	0.9	14.9	9.4	9.4
男性	(37)	34.9	0.0	2.4	2.2	5.1	14.1	4.6	0.0	28.0	8.9	8.9
女性	(57)	49.7	10.4	1.8	6.6	6.6	8.4	4.7	1.6	6.9	10.0	10.0
回答しない	(2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※赤字はベースがN=29以下のため参考値

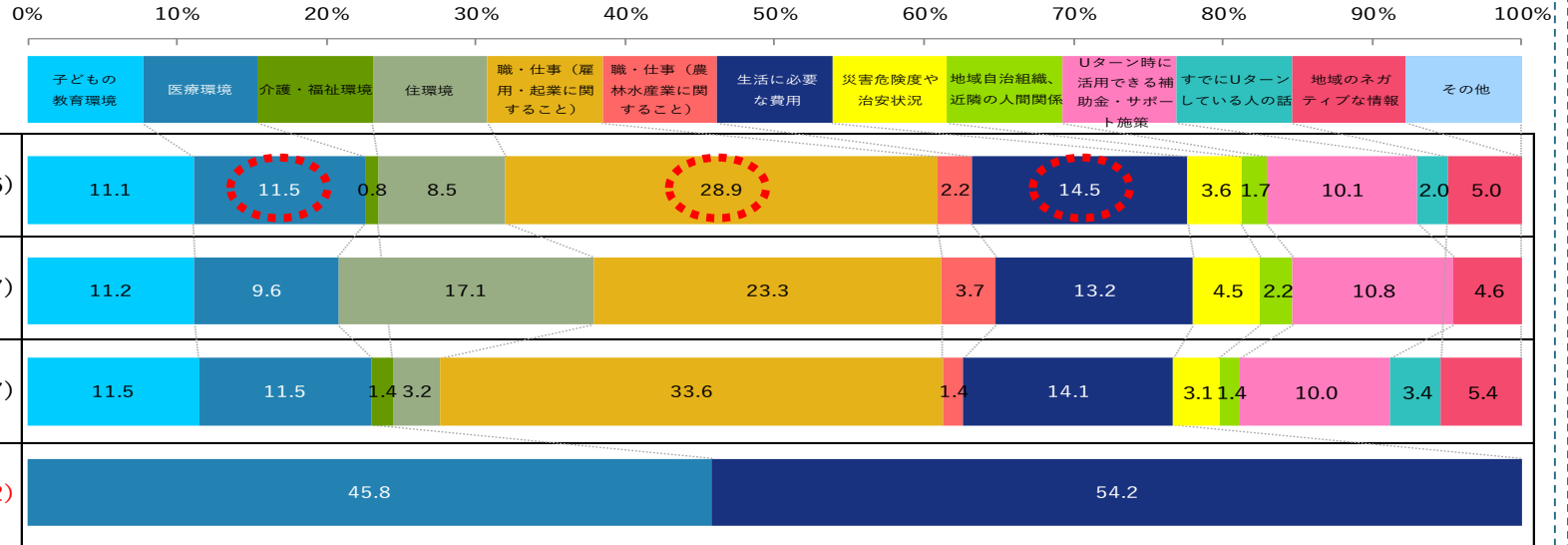
2 アンケート調査結果について_ (6) 移住等に関するアンケート調査

4. 愛媛県内への移住を検討する際に知りたい情報、希望する行政からの支援・サポート

- ・ 知りたい情報のトップ3は、①「職・仕事(雇用・起業に関すること)」、②「生活に必要な費用」、③「医療環境」。
- ・ 希望する行政からの支援・サポートのトップ3は、①「職・仕事の情報提供やマッチング」、②「家賃の補助など金銭的な支援」、③「移住後も親身になって相談に応じてくれる体制の充実」。

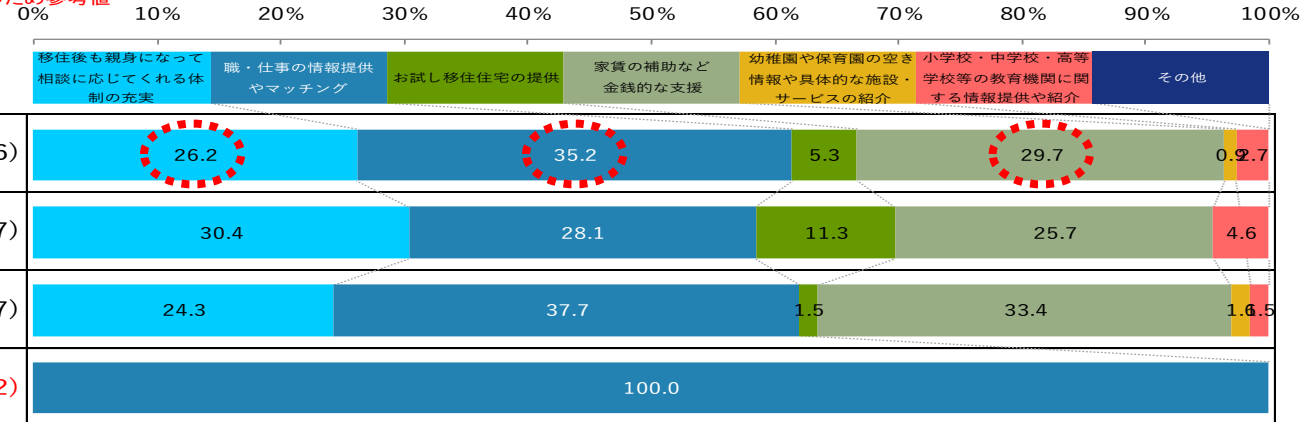
知りたい情報、希望する行政からの支援・サポートのいずれも、「職・仕事」に関連する事項がトップ。

愛媛県への移住を検討する際に
知りたい情報



※赤字はベースがN=29以下のため参考値

愛媛県への移住に際して希望する
行政からの支援・サポート



※赤字はベースがN=29以下のため参考値

2 アンケート調査結果について_（6）移住等に関するアンケート調査

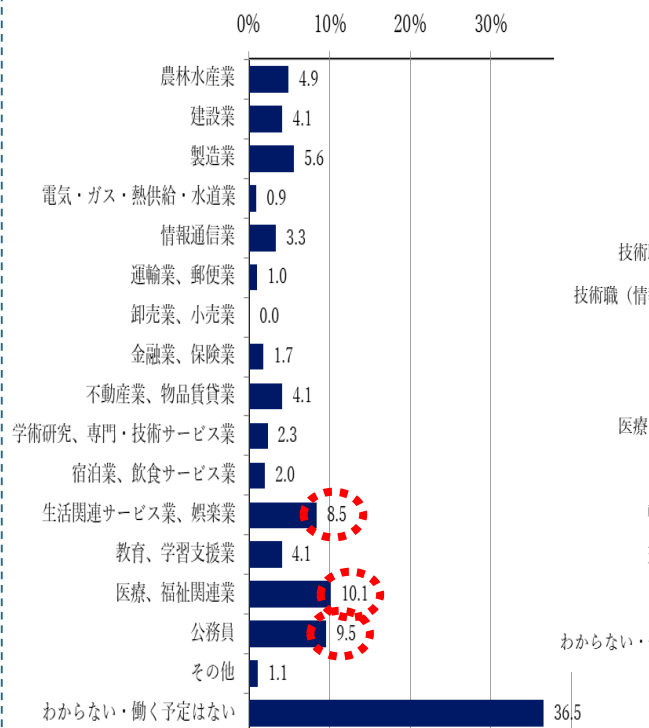
5. 愛媛県内への移住後に就きたい業種・職種、希望する世帯年収

- ・ 就きたい業種のトップ3は、①「医療、福祉関連業」、②「公務員」、③「生活関連サービス業、娯楽業」。
- ・ 就きたい職種のトップ3は、①「事務職」、②「医療・介護・福祉職」、③「営業職」。
- ・ 希望する世帯年収は、「年収600万円以上800万円未満」が30.8%と最多。

業種は「医療、福祉関連業」「公務員」、職種は「事務職」「医療・介護・福祉職」、世帯年収は「600～800万円」が移住に際しての一つのモデル。

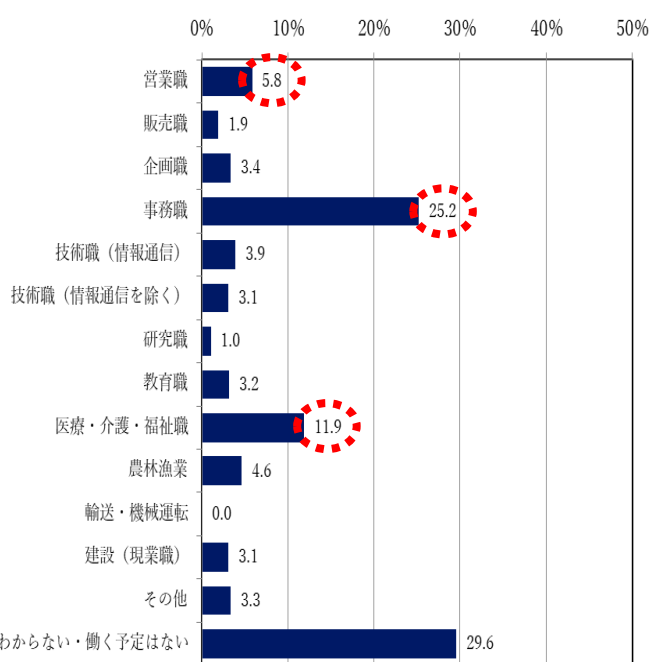
愛媛県への移住後に就きたい業種

(N=96)



愛媛県への移住後に就きたい職種

(N=96)



愛媛県への移住後に希望する世帯年収

(N=96)

